

大平山元遺跡展示施設むーもん館年報  
第1号

2024(令和6)年度

外ヶ浜町教育委員会







# 目次

1	沿革	1
2	施設概要	2
	(1) 建築の概要	
	(2) 平面図	
	(3) 開館関連事業	
3	教育普及等	6
	(1) 展示活動 常設展示	
	(2) 体験活動 学習室	
	(3) 教育普及活動	
	(4) 研究活動	
	① 蟹田川中流域の地形発達	山口義伸
	② 大平山元遺跡における遺物の出土層	山口義伸
	③ 大平山元遺跡出土黒曜石の分析結果	
4	管理運営	32
	(1) 利用状況	
	(2) 費用	
5	組織・団体	32
	(1) 職員構成	
	(2) 大平山元遺跡もりあげ隊	
6	利用案内	32
7	条例・規則	33



大平山元遺跡とむーもん館

## 1 沿革

2013（平成25）年に史跡指定を受けた大平山元遺跡は、保存管理計画の策定、整備基本構想、基本計画と将来にわたって保護し、保存・活用できるように整備事業について準備を整えていった。2019（令和元）年に第1期整備事業として位置づけた、指定地内西側の整備工事の実施設計からはじまり、2022（令和4）年度に現地工事が整った。展示施設については、史跡指定時から望まれていたものの、建設の実現や運営方法について、先行事例の視察や関係者の協議等、より良い方法を模索し続けていた。この当時の現状は、遺跡から300m東方の大山ふるさと資料館がガイダンスとしての役割を果たしていた。大山ふるさと資料館は、旧蟹田町立大山小学校の木造校舎を利用したもので、2001（平成13）年4月に開館し、大平山元遺跡からの出土品を中心に町内各遺跡からの出土品や町民から寄贈をうけた民具を展示・保管している施設であった。2019（令和元）年、新展示施設の具体的な実施が可能かどうか等の問題を解決するために素案の検討を実施した。その展示施設の素案は、①基本計画に沿った新規施設②規模を縮小した新規施設③大山ふるさと資料館の改修の3案で行ったが、大山ふるさと資料館の増改築が現行法上では実現が厳しいと判明したため、やむを得ず③大山ふるさと資料館の改修から同敷地内に小規模の新規施設の3案の検討になった。どれかを選択するという事ではなく、方向性を見いだせるようにするためであった。2021（令和3）年に、前年に遺跡整備地の南側の水路を挟んだ隣り合った私有地2筆を便益施設の用地として購入し、駐車場や多目的広場として整備していたところへ、コンパクトなものを建設することに方針を固め、進めていた第1期整備事業の最終年度に建設することとした。基本設計にあたっては、以下の5つのポイントに配慮した。①コスト面「将来へ渡る財政負担を考慮して、必要最小限の施設」「エレベーターなどのランニングコストが嵩む設備が必要ない設計」②耐久性「耐久性が高い鉄筋コンクリートの箱型構造にして文化財を適切に管理する」③周辺住民への配慮「農業用水路に開口部を広く取り、農作業がしやすい設計」「新たな用地の取得が不要な設計」「雪庇止めをつけるなど、隣接地に影響が少ない設計」④景観条例の遵守「遺跡からの景観を保全するため、低層の建物」「景観条例上の推奨色を用いて、周囲の景観から突出した印象を与えないようなデザイン」⑤文化庁財源の活用「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（50%補助）の要件の大平山元遺跡の案内に特化」である。設計の内容については、大平山元遺跡等整備活用検討委員会議で助言を受けながら、盛り込むべき内容を精査し、過不足のないガイダンス施設を目指した。2021（令和3）年基本設計、2022（令和4）年に実施設計を行い、2023（令和5）年度に着工し同年度の3月に完成、2024（令和6）年度4月に開館した。史跡大平山元遺跡の理解の促進や普及・啓発、保護・活用を図るための施設である。

なお、大山ふるさと資料館は、2023（令和6）年3月末に役割を終え、大平山元遺跡の出土品は新施設へ移し、その他の出土品や民具は「平館交流センター（字平館根岸小川251）」へ移動・収蔵し、一部の資料は展示公開している。



外ヶ浜町大山ふるさと資料館



平館交流センター内展示室

## 2 施設概要

### (1) 建築の概要

名称：大平山元遺跡展示施設むーもん館

所在地：東津軽郡外ヶ浜町蟹田大平沢辺46番地4

構造：鉄筋コンクリート造

延床面積：371.07㎡（B 1階：49.77㎡ 1階：321.30㎡）

建築面積：428.58㎡

用途：博物館その他これらに類するもの

実施設計業者：アール・エー・ビー開発株式会社（青森市第二問屋町三丁目2番35号）

建設工事請負業者：丸喜株式会社齋藤組（青森市中央二丁目2番12号）

事業費：281,109千円（うち国庫補助額135,890千円〔補助対象経費の50%の額〕）

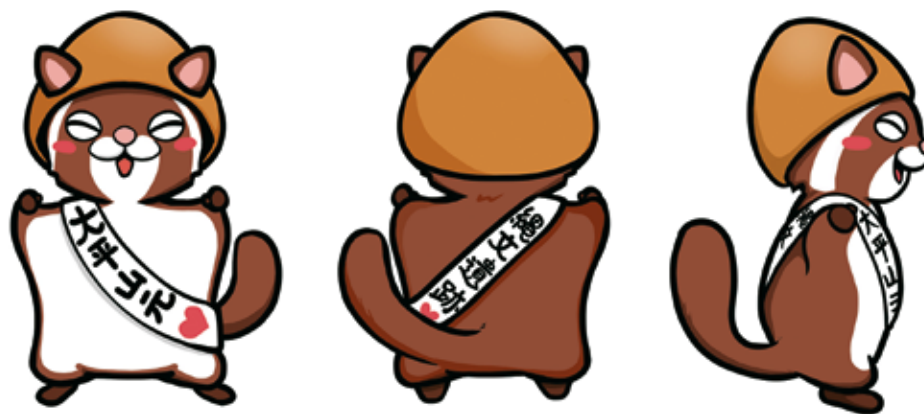
（◎工事費〔建築工事・電気設備工事・機械設備工事・外構工事・展示工事〕：276,580千円

◎施工監理：3,520千円 ◎備品購入費999千円 ◎需用費10千円）



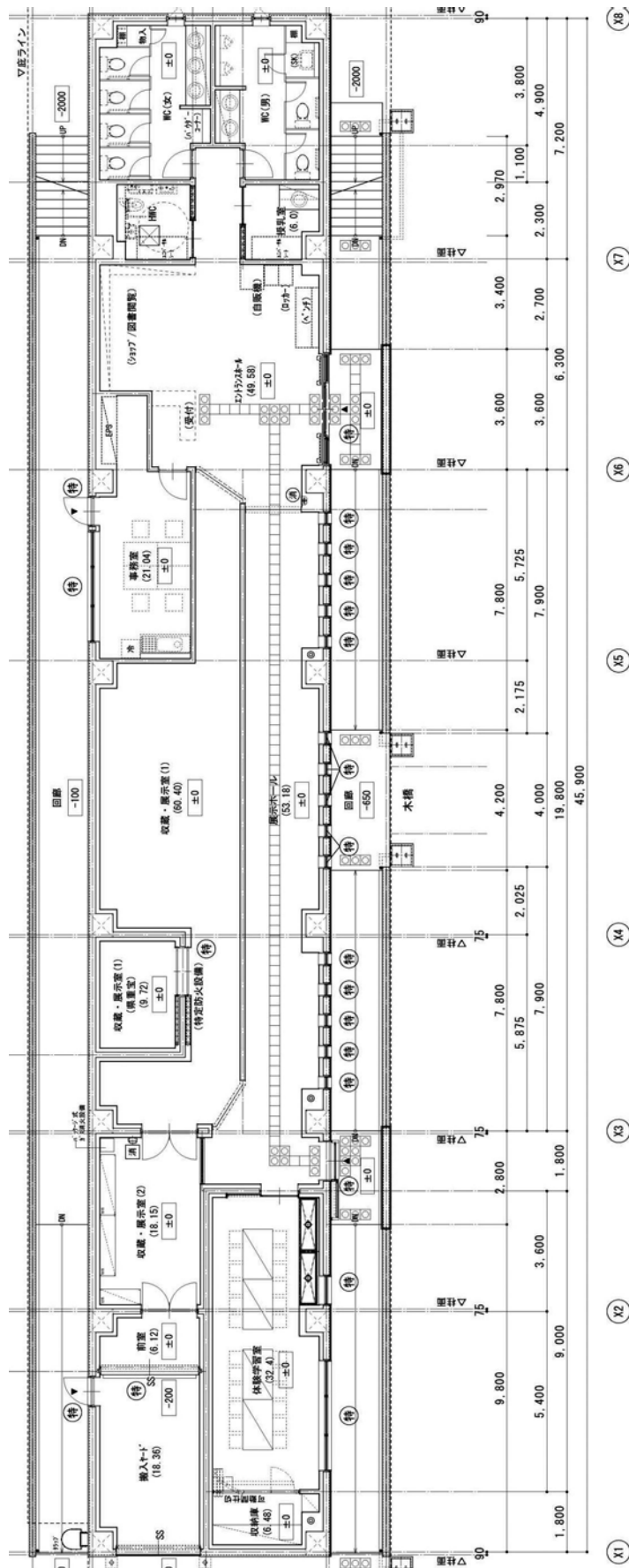
アール・エー・ビー開発株式会社

むーもん館外観イラスト



むーもん

(2) 平面図





外観



展示室



展示室



展示ホール



体験学習室

### (3) 開館関連事業

4月25日（木）事前内覧会 大平集落住民、町議会議員、文化財保護審議会委員、報道関係者、大平山元遺跡もりあげ隊



4月26日（金）開館セレモニー  
オープニングセレモニー 蟹田中学校風太鼓  
テープカット



### 3 教育普及等

#### (1) 展示活動 常設展示

建物は、無料エリアと有料エリアに区分している。無料エリアであるエントランスホール及び展示ホールは、世界遺産としての大平山元遺跡の価値や他の資産の位置づけ、町指定文化財の動画、観光マップを展示グラフィックを用いて紹介している。また、ミュージアムショップ及び図書閲覧コーナーも無料エリアとなっている。

有料エリアである観覧エリアは、まず大平山元遺跡の価値を説明し、これまでのあゆみを紹介している。

ZONE 1では、「氷期の暮らしを探る」をテーマに、後期旧石器時代の紹介及びくらしの様子を説明し、大平山元遺跡の石器群の変遷を解説する。さらに日本列島各地との関わりを読み説き、大平山元遺跡の特徴をマップと実物で示している。また大平山元遺跡の特徴のひとつ石材原産地であることも紹介し、石器の作り方を動画で解説の上、主な石器の実物を展示と解説で紹介している。

ZONE 2では、「縄文時代のはじまり、環境の激変と土器の出現」をテーマに自然環境の変化を大型のディスプレイを用い動画で解説する。地形の様子や地質を発掘調査時に剥ぎ取った土層を用いて紹介し、さらに自然環境における植物の解説をCGイラストのグラフィックを用いて示している。

ZONE 3では、「土器のある暮らし 遊動から定住生活へ」をテーマに発掘調査からわかるくらしの移り変わりを解説している。ここであらためて大平山元遺跡の発見や発掘調査の経緯を詳しく紹介し、特別室で土器片や石鏃の実物を展示している。

ZONE 4では、「土器のゆくえ」をテーマに大平山元遺跡で生まれた土器がその後どうなっていくのかを解説する。町内で発掘された様々な時代と種類の土器を展示している。



ZONE 1



ZONE 2



ZONE 3



ZONE 4

## (2) 体験活動 学習室

体験学習室（むーもん工房）では、最大24名まで入室でき、ミュージアムショップで材料を購入すると製作体験ができる。ミニ土器、組みひも、勾玉の3種類があり、それぞれ30分から60分程で完成する。工房利用者数320名（2月28日現在）



## (3) 教育普及活動

### ① イベント

むーもんマルシェ、5月から10月まで月一のおもてなしイベントとして開催している。館の観覧料が無料、屋外テントを用いて地域のショップ等が地元産品等を出店する。

5月5日（日）370名参加

6月2日（日）150名参加、無料体験（ねんどマグネットづくり30名）

7月7日（日）120名参加、遺跡ガイド及び講習会

8月4日（日）150名参加、無料体験（組みひもづくり30名）

10月6日（日）170名参加

むーもんフェスタ、9月の第1日曜日にマルシェの拡大版として開催している。

9月8日（日）300名参加、遺跡でライブ（三厩小学校よさこい披露、三厩中学校吹奏楽演奏）  
クラフトワークショップ、健康クイズラリー（町福祉課共催）



5月5日（日）



6月2日（日）



8月4日（日）



9月8日（日）

## ②講座等

遺跡ガイドの増員及びスキルアップをめざして、講座及び講習会を開催した。これによって見学希望の団体等にいつでも対応できるよう準備でき、町事業のバックアップや協力も行うことが可能になる。

4月22日（月）開館前の事前講習会、展示説明、体験メニュー練習

7月7日（日）ガイド講習会（むーもんマルシェの日）

7月3日（水）中学生ガイド（蟹田中学校の生徒が青森市荒川中学校の生徒をガイド）

6月29日（土）町の学童教室に通う児童と放課後こども教室事業及び青森大学ぬいどりクラブの活動によるぬいぐるみを用いたむーもん館を撮影しその紹介ポスターを作り、町役場エントランスに掲示した。また、青森県立青森南高等学校のJRC部が参加した。

7月21日（日）蟹田漁港にて開催の港まつりにむーもん館ブースを出店する。

10月27日（日）平館交流センターにて開催の町民文化祭に出張マルシェとして参加し体験ワークショップ等を開催する。



4月22日（月）



7月3日（水）



6月29日（土）



7月21日（日）



7月21日（日）



10月27日（日）

## ③資料の貸出し

文化庁展示会 2025（令和7）年1月12日から5月29日まで 石器93点・7組、土器20点

#### (4) 研究活動

##### ①蟹田川中流域の地形発達

山口 義 伸

##### はじめに

山口（1979）は大平山元遺跡の立地する蟹田川中流域の河成段丘について、中川（1972）を参考にしてその区分を行った。その後、「5万分の1地形分類」（水野・堀田、1992）や「変動地形からみた津軽半島の地形発達史」（吾妻、1995）などが公表され、また蟹田川流域における北海道新幹線関連のボーリング調査、外ヶ浜町教育委員会による国史跡に向けた発掘調査も実施された。これらの新資料をもとに中流域の段丘群について再検討する。

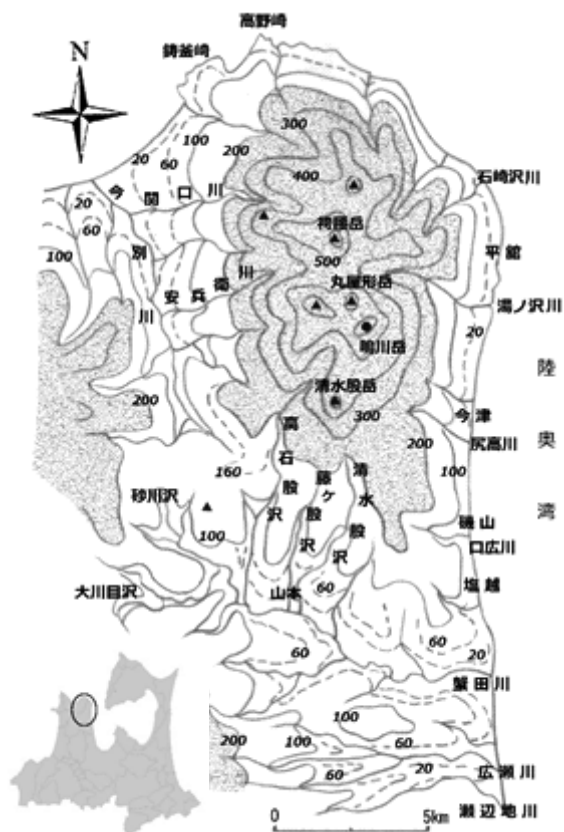
#### 1) 地形・地質概観

##### ① 地形と水系

津軽半島は西が日本海、東が陸奥湾、北が津軽海峡と3方が海に面している。北東部に位置する平館山地の北端は山地斜面が海岸線まで迫り、海食崖、顕岩、海食洞など岩石海岸特有の景観を呈する。東側は数10mの急崖で湾岸に臨み、崖下には小規模ながら平館低地が帯状に分布する（青森県、2001）。

第1図は平館山地の地形概観である。おおむね流路2km未満の小河川については谷地形を埋め戻して図化した。全体的に標高200m以上の等高線はその間隔が狭く、標高500m超の山稜を示す等高線は北側に偏っている。山地にそびえる袴腰岳（680m）、木無岳（686m）、丸屋形岳（718m）、鳴川岳（668m）などは火山性岩石の差別浸食を受けた残丘であり、鳴川岳の南斜面には崩落跡が認められる（水野・堀田、1992）。北～東側では標高200m以下の等高線も間隔が狭く山地斜面が海岸まで迫っている。これに対して、西～南側では南方に沈み込むドーム構造の影響もあって、標高300m以下の間隔が広く緩やかな丘陵となる（岩井・根本、1992）。

平館山地を流れる水系をみると、袴腰岳や丸屋形岳を中心に放射状に流れている。北～東側を流れる石崎沢川、湯ノ沢川、尻高川、口広川などの河川はいずれも流路距離が5km未満と短く河床勾配も急であって、谷口には小規模な扇状地が展開する。西側は三厩湾に注ぐ今別川が主流であって、支流の関口川や安兵衛川などは流路距離が6～7kmあり、谷口付近に扇状地が展開する。扇状地は標高100m付近を扇頂とし、扇端が今別川の

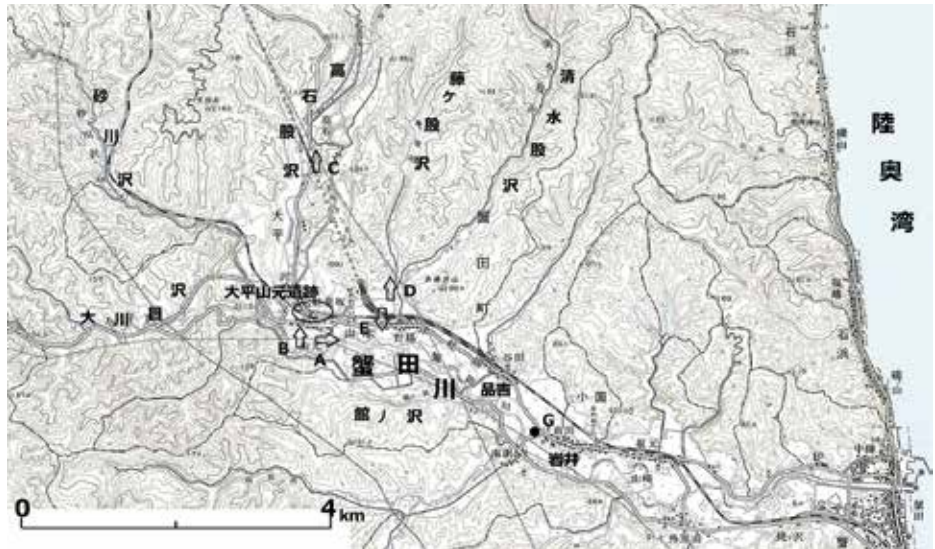


第1図 平館山地の地形概観図  
5万分の1地形図「龍飛崎・蟹田」使用  
(国土地理院)

谷壁をなす。一方、南側は蟹田川が主流であって、山地斜面を刻む支流だけでなく西方の津軽山地から流れる大川目沢および砂川沢とも合流する。清水股岳に発源する清水股沢や藤ヶ股沢は7～8km南流した後に蟹田川と合流し、丸屋形岳に源を発する高石股沢は約10km南流した後に合流する。支流との合流後、蟹田川は陸奥湾へと東流するが、下流域では河床勾配の緩やかさと調和的によく蛇行し、旧河道跡も広範囲に分布する。

なお、蟹田川右岸の西股沢や南股沢などの支流は津軽山地に源を発し、東流して中～下流域で合流する。

蟹田町（現外ヶ浜町）土地利用図（1/5000、平成4年測図）によると、蟹田川の下流域における河床高度は標高5m未満であるが、7km上流の山本付近から遺跡付近にかけての約2km間は標高12～13mから約20mへと急に高度を増す。河床勾配も1.5/1000と低平な下流域から急勾配で川幅の狭い中流域となる。大川目沢や砂川沢は上流側でも5/1000と同程度の勾配であるが、高石股沢の上流域は14/1000と約3倍も勾配が急である。



第2図 平館山地南縁を流れる蟹田川（5万分の1地形図「蟹田」使用）  
 ⇒印（A～E）はドローンによる撮影地点と方向を示す。  
 ●Gはボーリング地点を示す。

## ② 津軽山地北部の地質

第3図には20万分の1地質図「青森」（大沢・三村、1993）の津軽半島北部を掲載した。半島北部は南北に延びる2列の山地と、山地に挟まれた丘陵とで構成される。西側の津軽山地は半島北部の龍飛崎を起点として矢形石山、増川岳、四ツ滝山などの山稜が連なり、南方へは玉清水山、袴腰岳などと連なる。地質構造的には四ツ滝ドームや袴腰岳ドームなどドーム構造が連続する。北東部の平館山地は袴腰岳、丸屋形岳などが連なり、平館ドームが位置する。

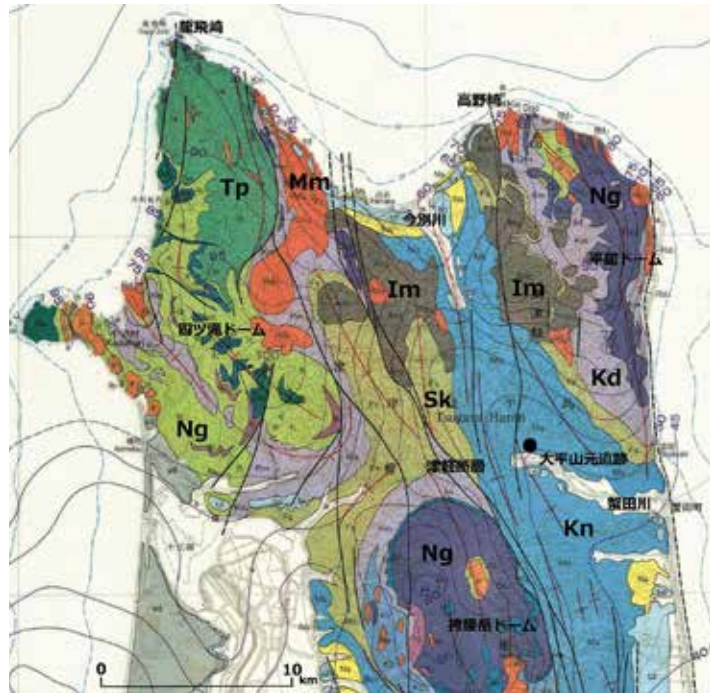
津軽山地および平館山地には第三紀中新世の地層が集中する。日本海の拡大に伴い深海化した時期に小泊層などが堆積するが、鮮新世には太平洋プレートの移動により東からの圧縮応力を受け隆起する。褶曲の結果、背斜部が津軽・平館の両山地に、向斜部が山間部の低丘陵地として形成されたと考えられる。また、津軽山地東縁には今別町から南方の大釈迦に及ぶ津軽断層があって、断層の東側が沈降帯となる。この沈降帯は今別川低地や蟹田川低地を含む標高200m以下の低丘陵地に対応し、第四紀の蟹田層Knが堆積する（青森県、2001）。

津軽・平館両山地には第三紀中新世の地層がドームの背斜軸から両翼に向かって分布する。露出する地層は下位から、長根層Ng、龍飛安山岩類Tp、三厩流紋岩類Mm、小泊層Kd、今別安山岩類Im、塩越層Skであり、おもに火砕岩と海成泥岩で構成される。平館山地では背斜軸に分布する長根層が緑灰色凝灰質砂岩を主体とし、火山礫凝灰岩や玄武岩・安山岩・流紋岩の溶岩を挟

む。小泊層は背斜軸を取り囲むように両翼および南部に分布し、暗灰色の珪質泥岩を主体とし、淡緑色～青灰色凝灰岩やデイサイトを挟在する。今別安山岩類は西翼に分布し、安山岩溶岩およびデイサイト溶岩と火山泥流的堆積相を示す同質火砕岩からなる。塩越層は南西端に分布し、泥岩や砂岩が主体である。

蟹田川支流の高石股沢は今別安山岩類の分布域を、藤ヶ股沢や清水股沢は小泊層と蟹田層、西側の砂川沢や大川目沢は小泊層と塩越層の分布域を流れる（第3図）。

小泊層の主体をなす珪質泥岩は風化殻が比較的厚く、地形的にも緩傾斜をなす。今別安山岩類は袴腰岳や丸屋形岳の残丘にみられるように風化殻が薄く谷壁も急傾斜をなす。第四紀層の蟹田層は雨水の浸食に弱いため風化殻が浅く、分布域である藤ヶ股沢流域では崩落箇所が目立つ。



第3図 津軽半島北部の地質図 大沢・三村（1993）使用  
箕浦ほか（1998）の津軽半島北部の地質名を使用  
凡例；Ng；長根層、Kd；小泊層、Im；今別安山岩類、  
Sk；塩越層

## 2) 蟹田川流域の河成段丘の記載

### ① 段丘面の分布

蟹田川の左岸は緩やかな丘陵が流域まで迫り、中流域には流路距離の長い支流が合流する。支流の河床勾配は津軽山地を流れる砂川沢や大川目沢の4～5/1000と比較してやや勾配がある。高石股沢では約14/1000と急勾配であるが、藤ヶ股沢や清水股沢は丘陵の緩やかさを反映して9～10/1000である。河川の横断面をみると、基盤の第三紀層を刻む最上流部ではおおむねV字状を呈するが、蟹田層を基盤とする丘陵では幅の広い平底形を呈する。支流間の丘陵はやせ尾根の状況であり、斜面には等高線の円弧状の配置がみられ斜面崩壊が多発していたと考えられる。

第4～6図は支流を含む中流域の現況をドローンで撮影したものである。なお、流域には高石段丘、館ノ沢段丘、大平段丘、そして山本段丘が分布する（山口、1979）。

A地点は高石股沢の谷口付近から下流側を撮影した写真である（第4図）。流域には圃場整備された山本段丘が分布し、手前に分布する大平段丘には大平山元遺跡が立地する。なお、右岸では流域沿いの館ノ沢段丘が蟹田川に急崖で臨む。



第4図 蟹田川中流域（外ヶ浜町教育委員会提供）  
A地点の撮影は第2図の⇒印A地点に符合する。  
大平段丘は集落、山本段丘は水田として利用。

B地点は合流点付近から北方の高石股沢を撮影した写真である（第5図）。河床勾配が急であるが、谷幅がやや広い。圃場整備された山本段丘は蟹田川流域だけでなく高石股沢や藤ヶ股沢の支流にも広がる。大平段丘は左岸の高位段丘の崖下に傾斜面として帯状に分布し、段丘上の主要地方道今別蟹田線に沿って集落が点在する。左端にはやせ尾根状の高石段丘が分水嶺として存在し、砂川沢が流れる。流域沿いにはJ R 津軽線の線路があり、合流点から約1 km 上流までの幅広い平坦な谷底にはスギが植林されている。

C地点は高石股沢の上流域を撮影した写真である（第5図）。谷底平野は谷口から上流の十志和（標高約100m）に至る約3 km間は水田として利用される。なお、左岸には平滑な高石段丘が流域沿いに分布し、谷底には急崖でもって臨む。

D地点は藤ヶ股沢流域の写真である（第6図）。平坦な谷底平野は約1.5km上流まで続く。E地点は蟹田小国野脇の集落が位置する微高地を示す（第6図）。微高地は舌状に張り出し、幅約400mで、藤ヶ股沢と清水股沢には比高1～1.5mの斜面（↓印）で臨む。なお、下流側の蟹田小国品吉を流れる支流でも上流側が平坦な谷底を呈する。

第4～6図のように、蟹田川中流域には小規模ながら河成段丘が分布し、支流は土砂の供給により埋積され平坦地となっている。

第7図には中流域における段丘群の分布を示した。中川（1972）や吾妻（1995）が指摘するように、支流の高石股沢流域には高石段丘、谷口には大平段丘が分布する。中流域の左岸では山本段丘が支流を含め幅広く分布し、右岸では流域沿いに平坦な館ノ沢段丘が分布し、谷底には急崖で臨んで



第5図 高石股沢流域（外ヶ浜町教育委員会提供）

B地点（第2図-B）は合流点付近に分布する大平段丘と山本段丘を示す。

C地点（第2図-C）は上流域まで水田として利用された谷底平野を示す。



第6図 藤ヶ股沢流域（外ヶ浜町教育委員会提供）

D地点（第2図-D）は上流域の平坦な谷底平野は水田に利用される。

E地点（第2図-E）は舌状の微高地で、蟹田小国野脇が位置する。

いる。

段丘区分にあたっては、北海道新幹線関連のボーリング資料、外ヶ浜町教育委員会の実施した緊急発掘調査や国史跡に向けた学術調査の新しい情報をもとに、山口(1979)の段丘区分を再検討した。

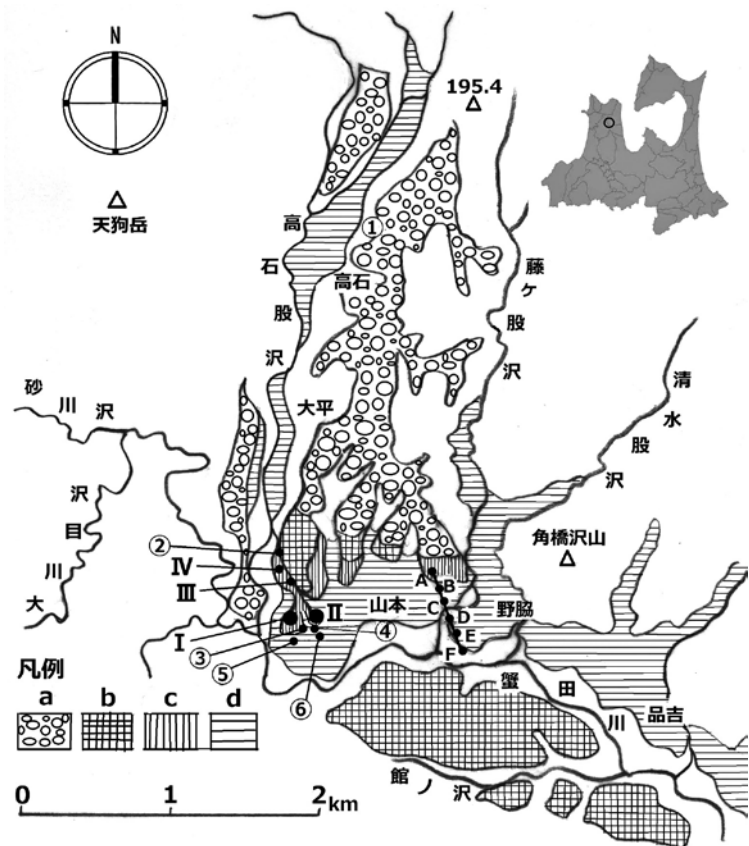
## ② 段丘構成層の記載

### A；高石段丘

山口(1979)は高石段丘を三厩湾岸に分布する大泊段丘(中川、1972)に対応すると考えた。吾妻(1995)はI m面(大泊段丘に対応)を刻む開析扇状地であるとしてII f面とした。広域火山灰である洞爺火山灰Toyaや直下の粘土質火山灰層に被覆されることから、最終間氷期前の低海水準期(海洋酸素同位体ステージMIS6、約14~16万年前)に形成されたと述べている。本稿ではII f面が高石段丘と同一分布域を示すことから、吾妻(1995)を踏襲する。

高石段丘は高石股沢~藤ヶ股沢間の尾根部に分布する。標高90~180m、25~30/1000と南方への傾斜面であり、南北に4~5km、上流側で約500m、下流側では1km超と幅広く分布する。段丘面の西半分が平滑面であるのに対して、東側では等高線が大きく入り組み、やせ尾根や小丘状の分布を示す。1/5000の土地利用図をみると、藤ヶ股沢に臨む段丘斜面には谷状の凹地がみられ、等高線の円弧状の配置から斜面崩壊に起因すると考えられる。

第8図は蟹田大平高石の採石場跡(第7図-①地点)の露頭である。段丘構成層は下位から、砂礫層(厚さ約5m)、成層砂層(厚さ約1m)と褐色粘土質火山灰層(約2m)の順で堆積し、蟹田層を不整合に覆う。段丘砂礫層は2層に細分され、下部層は塊状無層理で、酸化の進んだ粘土質の暗赤褐色凝灰質砂を基質とする砂礫層(厚さ約4m)であって、レンズ状の砂層を挟在する。平均礫径が10~30cm大、最大径50



第7図 中流域の河成段丘の分布

I~IVは大平山元I~IV遺跡の位置、①~⑥は土層断面・露頭の位置、A~Fはボーリングの位置を示す。

凡例；a・高石段丘、b・館ノ沢段丘、c・大平段丘、d・山本段丘



第8図 高石段丘(第7図-①)

～60cm大の円礫～亜円礫の風化の進んだ安山岩礫や凝灰岩礫が目立つ。表面に剥離痕や亀裂痕を有する礫や断面にマンガンMnや鉄Feが沈着した礫が多く、基質と混然一体をなすことから土石流堆積物と考えられる。上部層は厚さ約1mで、扁平な円礫～亜円礫が多く礫質の砂礫層である。扁平礫が安定な配置をなしインブリケーションがみられることから砂礫堆を構成していると考えられる。砂礫層の上位には層理の発達した中粒砂層が薄く堆積する。火山灰層は最上部が黄褐色のシルト質火山灰で、下位には粘土質火山灰が厚く堆積する。

### B：館ノ沢段丘

山口（1979）は、館ノ沢段丘を三厩湾沿いに分布する今別段丘や陸奥湾西岸の玉松段丘（中川、1972）に対比すると考えた。吾妻（1995）はこれらの海成段丘をⅢm面とし、これに連続する河成のⅢf面が蟹田川中流域に分布すると述べている。また、ToyaがⅢm面を被覆することからⅢm面およびⅢf面の形成時期を最終間氷期最盛期MIS 5e（12～13万年前）とした。館ノ沢段丘は蟹田川の左右両岸での分布状況や構成層に相違が認められる（山口、1979）。右岸では標高30～40mに平坦面があり、流域沿いに幅500～600mで約3kmにわたって分布する。左岸では全体的に規模が小さく、標高35～55mと傾斜面として断続的に分布する。高位の高石段丘とは約30m、下位の大平段丘とは約10mの段丘崖で接する。なお、高石段丘には縄文時代前期～中期の大平墓地公園遺跡が立地する。

第9図-Aは三厩湾に面した今別段丘の火山灰層（厚さ約100cm）と段丘砂礫層（約150cm）であって、館ノ沢段丘でも同様の構成層をなす（山口、1979）。火山灰層はクラックを境に上部が黄褐色のシルト質火山灰、下部が粘土質火山灰であって、Ⅲm面を被覆する火山灰層と一致する。黄褐色火山灰は十和田八戸軽石To-HPに対比され、大平山元I遺跡の遺物包含層からもTo-HP由来の火山ガラスが検出される。

第9図-Bは遺跡近くの斜面崩壊の跡地にみられる段丘砂礫層である。左岸の砂礫層は暗褐色粘土質砂を基質とする塊状の砂礫層からなる。礫径10～20cm大の亜円礫～亜角礫の安山岩礫や凝灰岩礫を含み、レンズ状のシルト質砂層を挟在する。詳細は不明であるが、段丘砂礫層の一部に土石流堆積物が含まれると考えられる。一方、右岸の段丘砂礫層は厚さ100～200cmで円礫～亜円礫と円磨度の高い礫を含む砂礫層と淘汰良好な細粒砂層からなり、暗褐色の粘土質火山灰層で被覆される。

### C：大平段丘

山口（1979）は、大平段丘を今別川流域の鍋田段丘や陸奥湾西岸の郷沢段丘（中川、1972）に対応すると考え、吾妻（1995）は山本段丘も含めてⅣf面とした。これら



第9図-A 今別段丘の構成層



第9図-B 館ノ沢段丘の構成層（第7図-②）  
段丘構成層は基質支持の砂礫層である。

の段丘は今別川支流の関口川や安兵衛川にみられるように扇状地状に発達することが多い（中川、1972）。

水野・堀田（1992）は山本付近の段丘を沖積段丘と分類したが、吾妻（1995）はIV f面をToya降下後の最終氷期最盛期MIS 2（約2万年前）に形成されたと述べている。本稿では大平山元I遺跡から縄文草創期の遺物が出土し、遺物出土層からTo-HP由来の火山ガラスが検出されることから吾妻（1995）を踏襲する。

大平段丘は高石股沢～藤ヶ股沢間の蟹田川の左岸にあって、館ノ沢段丘の崖下に断続的に分布する。標高23～35mの4～5/100の傾斜面であって、高石股沢流域では東西両端が約2mの段丘崖で山本段丘と接し、南面の山本段丘へは突出する砂礫堆以外はほとんど連続する。第7図に示したように、大平山元I遺跡（標高23～26m）が大平段丘の西端寄りの微高地に、大平山元II遺跡（22～26m）は東端の小丘地に、北側には大平山元III遺跡（標高29～34m）や大平山元IV遺跡（30～35m）もあって、いずれも砂礫堆上に立地する。

第10図は大平山元I遺跡の土層断面である。耕作土直下には暗褐色火山灰質土層が堆積し、基本土層の第II層と第III層からは縄文時代草創期の遺物が出土している。出土遺物に付着した炭化物からは $13,210 \pm 70$ yr.BP、 $13,030 \pm 170$ yr.BP、 $12,720 \pm 160$ yr.BPの $^{14}\text{C}$ 年代値が得られている（外ヶ浜町教育委員会、2011）。また、出土層からは火山ガラスの濃縮層準が認められなかったが、第II層からTo-HP（約1.2～1.3万年前）由来の火山ガラスが多く検出された。火山灰質土層の下位には段丘砂礫層が堆積する。径10～30cm大の安山岩礫の垂円礫～垂角礫を主体とし、挟在するレンズ状の成層砂層を境にして2層に区分される。下位の砂礫層Aは垂角礫～垂円礫が主体で淘汰不良の砂を基質とする暗緑灰色の砂礫層であり、砂礫層Bには垂円礫～円礫が主体でインブリケーションの特徴を有する酸化した暗赤褐色の砂礫層が堆積する。

2003年、蟹田町（現外ヶ浜町）教育委員会は主要地方道鱒ヶ沢蟹田線の道路改良工事に係る緊急発掘調査を実施した。第11図（第7図-③）は工事区に連結する主要地方道今別蟹田線の南側への延長部にあって、大平段丘末端の砂礫堆を構成する砂礫層である。上述のように砂礫層Aは厚さ100cm以上の基質支持の砂礫層であって、中礫～大礫サイズの垂円礫～垂角礫の安山岩礫が多く30～50cm大の礫も含まれる。また、風化した礫や剥離痕や亀裂痕のある礫も存在する。砂礫層Bは厚さ100cm超の中粒砂を基質とする礫支持の砂礫層であって、その特徴は大平山元I遺跡で確認した砂礫層に酷似する。大礫サイズの扁平な円礫～垂円礫の安山岩礫が圧倒的に多く20cm超の垂円礫も含まれ、礫には長軸方向が流向（右→左）に対して上流側に傾斜するインブリケーションがみられる。なお、砂礫堆の東端（第11図右）にある谷状凹地には褐色火山灰質土層が厚く堆積する。上部が粘土層であり、下部は砂が優勢となって下底には砂礫堆を剥落した円礫～垂円礫が堆積する。この火山灰質粘土層は基本土層の第IV層に対応し、下底の砂礫層も含め



第10図 大平山元I遺跡の基本層序

（外ヶ浜町教育委員会提供）

砂礫層Aが基質支持砂礫層、砂礫層Bがインブリケーションのみられる砂礫層が堆積する。

洪水による定着物と考えられる。谷状凹地は段丘末端の突出した砂礫堆と、東端の大平山元Ⅱ遺跡の立地する小丘地との間を南北方向に延びる流水路であったと考えられる。この谷状凹地は大平山元Ⅰ遺跡と大平山元Ⅱ遺跡の境界をなし、主要地方道今別蟹田線はこの凹地の延長線上を通る。なお、北側に立地する大平山元Ⅲ遺跡や大平山元Ⅳ遺跡でも砂礫堆や凹地内の火山灰質土層が確認されている（蟹田町（現外ヶ浜町）教育委員会、2004；外ヶ浜町教育委員会、2006）。

第14図は北海道新幹線関連のボーリング地質柱状図である。A孔のボーリング地点は藤ヶ股沢の右岸に分布する大平段丘上に位置する。分布範囲が狭く約10/100の傾斜面であって、山本段丘とは急勾配の斜面で接する。A孔（標高32.5m）は基盤の蟹田層（砂岩）までの深度が約8mである。上位には厚さ約5mの砂礫層が堆積し、下部の約3mでは礫径が小さい。砂礫層は円礫～亜円礫を主体とし細粒～粗粒の淘汰の悪い砂を基質とする。上位には火山灰質土層と考えられる均質な極細粒砂層が約1mの厚さで堆積する。なお、土地利用図（1/5000）をみると、段丘面上には等高線の配置からマウンド状の高まりが判読できる。背後の丘陵地には円弧状の凹地が認められることから崩落堆が予想され、崩落物を含めて砂礫層が厚く堆積したと考えられる。



第11図 大平段丘の構成層（第7図-③）（外ヶ浜町教育委員会提供）

- （左）砂礫層Aは基質支持砂礫層で、上方粗粒化も認められ土石流堆積物と考えられる。砂礫層Bは右傾斜の礫（流向；右→左）が多くインブリケーションの特徴がみられる。
- （右）砂礫堆間を埋積する火山灰質土層は洪水による定着物と考えられる。

#### D：山本段丘

山口（1979）は山本段丘を沖積段丘とした。その後の発掘調査により大平段丘と同様に山本段丘にも被覆火山灰層が存在することから、吾妻（1995）の図示したMIS 2（約2万年前）に形成されたIV f面に相当する。

山本段丘は高石股沢から藤ヶ股沢を経て下流側の蟹田小国品吉にかけて左岸に200～300mの幅で分布する。高石股沢～藤ヶ股沢間では標高18～19m、藤ヶ股沢よりも下流側では標高16～18mと高度を下げ、全体的には下流側に向かう緩傾斜面である。ただ、高石股沢や藤ヶ股沢との合流点付近では標高20～22mと周囲よりも約2mも高い舌状の微高地が蟹田川本流に向かって張り出している。山本段丘は高石股沢の微高地を含め圃場整備され水田として利用されているが、藤ヶ股沢の微高地には蟹田野脇が位置し（第6図）、下流の蟹田小国品吉を流れる支流も同様である。なお、山本段丘は比高4～6mの段丘崖で蟹田川の河床面に臨み、蟹田小国品吉より下流では岩井段丘（仮称）へやや勾配のある傾斜面で接する。

第12図は主要地方道今別蟹田線の南方への延長線上にあって（第7図-④）、山本段丘の構成

層を示す。構成層はシルト-砂互層からなり、砂層部分は全体的に酸化し下部は砂礫質となる。また、大平山元I遺跡の基本土層に覆われ、このうち第IV層は、砂礫堆間の流水路跡を経て山本段丘へと流下したと考えられる。第IV層直下には古土壌と考えられる黒褐色の有機質土層が堆積し、古土壌を被覆するシルト層は乾燥によりマッドクラックが発達する。

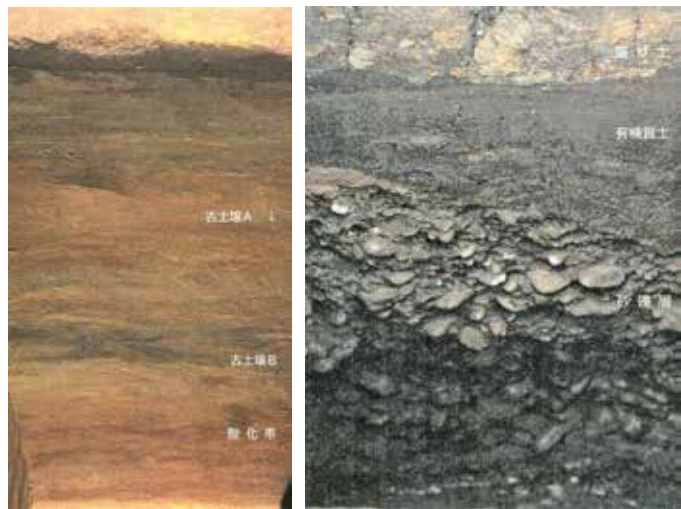


第12図 山本段丘の構成層（第7図-④）

（外ヶ浜町教育委員会提供）

第IV層下にシルト-砂互層や古土壌が堆積する。

第13図には道路改良工事に係る発掘調査の土層断面を示した（第7図-⑤・⑥）。工事区は山本段丘上にあつて大平段丘との境界付近に位置する。⑤地点は段丘の西側に位置し、古土壌とシルト-砂互層（厚さ2m以上）が堆積する。⑥地点は第12図の南東側に隣接し、表層近くまで砂礫層が突出する。基質支持の土石流堆積物と砂礫堆を構成する砂礫層が堆積し、境界部には粗粒砂層が挟在する。砂礫層直上にある有機質土層は増水時の浮遊土砂が腐植化した堆積物と考えられる。なお、⑤地点の西側に隣接する深掘りでも砂礫層があつて、直上にシルト-砂互層が堆積する。



第13図 山本段丘の構成層（第7図-⑤⑥）

（外ヶ浜町教育委員会提供）

（左；⑤）古土壌とシルト-砂互層が堆積する。

（右；⑥）砂礫層と有機質土層が堆積する。

第14図は北海道新幹線関連のボーリング地質柱状図である。ボーリング地点は外ヶ浜町蟹田山本にあつて、A～F孔間は南北に約700mの長さである。

ボーリング資料をみると、藤ヶ股沢でも砂礫層の直上に山本段丘の構成層に相当するシルト-細粒砂互層が堆積する。砂礫層の上面をたどると、A孔～B孔間では約8/100と急勾配であり、B孔～D孔間では4/100の勾配があり、そしてD孔～F孔間ではほぼ平坦である。

各孔の堆積物の深度、層厚、層相は以下のとおりである。

B孔（標高23m、蟹田層；深度約12m）は藤ヶ股沢の右岸に分布する山本段丘上にあつて、下位には砂礫層（厚さ約2m）と細粒砂層（約8m）が堆積する。砂礫層は亜角礫が主体で粗粒砂を基質とする。細粒砂層は層相から2分され、下部層（厚さ5m）はシルト層と互層をなし、上部層（約3m）は有機質シルト層を挟在する。

C孔（標高20m、蟹田層；深度約11m）はB孔と同じ山本段丘上にあつて、下位には砂礫層（約1.5m）とシルト-砂互層（約3m）が堆積する。砂礫層は亜角礫を主体とし不均質ながらも細粒砂を基質とする。シルト-砂互層の上位には木片を含む有機質シルト層（深度6～7m）が堆積し、細粒砂-粗粒砂互層（約3m）から砂礫層へと変化する。

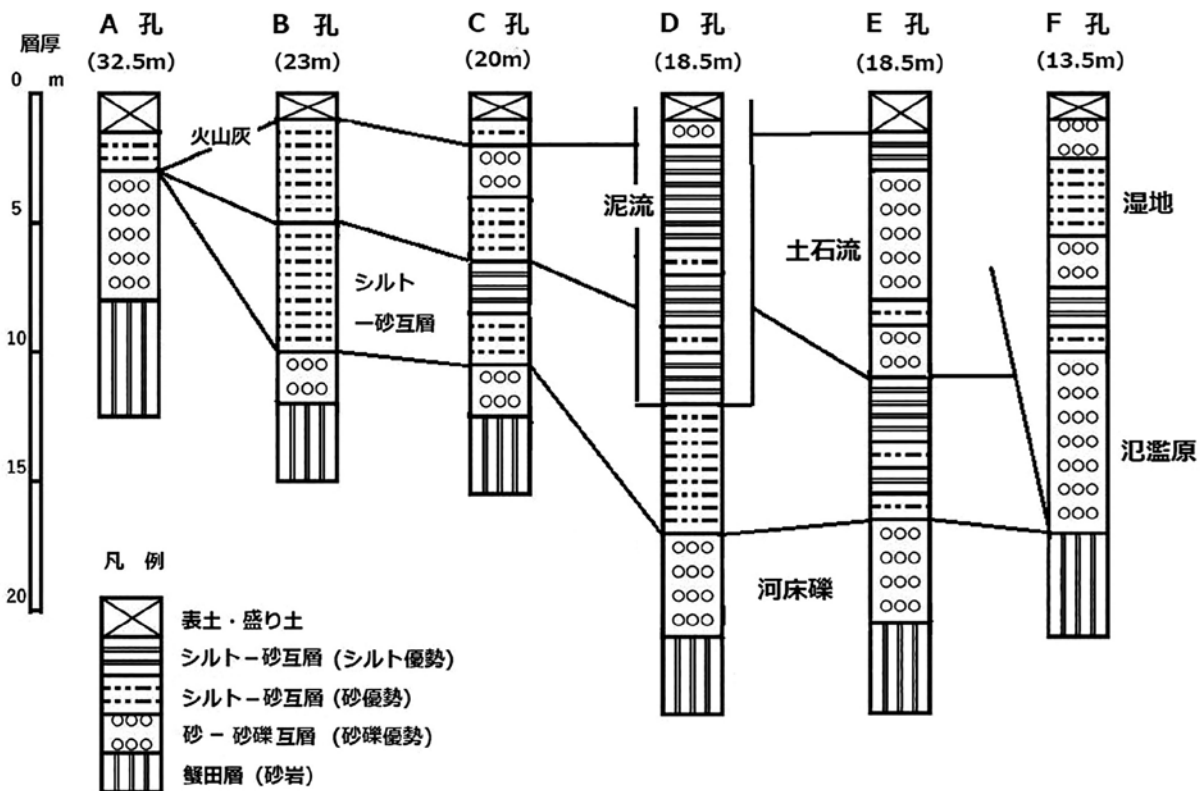
D孔（標高18.5m、蟹田層；深度約21m）は藤ヶ股沢の谷底にあつて、下位には砂礫層（厚さ

約4m)と礫混じりの細粒砂層(約6m)が堆積する。砂礫層は亜円礫が主体で粘土質細粒砂を基質とし、直上には粘土混じりの砂礫層(約1m)が堆積する。なお、最上部にはN値3以下で塊状の砂質シルト層(約10m)が堆積する。全体的に腐植物や木片が含まれ、深度7~8m間には木片が集中することから藤ヶ股沢を流下した流木を含む最新の泥流堆積物と考えられる。

E孔(標高18.5m、蟹田層;深度約21m)は藤ヶ股沢~清水股沢間の舌状の微高地上にあって、下位には砂礫層(厚さ約6m)とシルト優勢の細粒砂-シルト互層(厚さ約6m)が堆積する。砂礫層は円磨度の高い円礫~亜円礫が主体で粗粒砂を基質とする。表層に近い砂礫層(厚さ9m)は亜円礫~亜角礫を含む礫混じりの砂層であって、上半部には粘土層が挟在する。

藤ヶ股沢流域におけるボーリング資料からみた堆積物の特徴と、大平山元I遺跡を含む高石股沢流域との比較についてまとめた。

- ① B孔~E孔にはいずれも砂礫層の直上に砂優勢のシルト-砂互層が堆積し、高石股沢流域の山本段丘の構成層と酷似する。互層の厚さは丘陵寄りのB孔で薄く南側のE孔で厚い。
- ② B孔~D孔間の砂礫層の上面は深度から4/100の勾配で南方へ傾斜し、D孔~E孔間はほぼ平坦である。B孔~D孔間の4/100の勾配は高石股沢流域での大平段丘と山本段丘を構成する砂礫層の勾配とほぼ一致する。D孔~E孔間は古蟹田川の河床面の可能性が高い。
- ③ B孔・C孔の砂礫層は厚さ約2mと薄く亜角礫を包含する。B孔が粗粒砂を、C孔は不均質ながら細粒砂を基質とする。一方、D孔・E孔は4~6mと厚く円礫~亜円礫を包含する。D孔は粘土質細粒砂、E孔は淘汰の悪い礫混じりの砂を基質とする。B孔とC孔は円磨度の低い



第14図 北海道新幹線関連のボーリング地質柱状図

礫を包含するのは大平山元 I 遺跡で確認した砂礫層 A に、D 孔と E 孔は円磨度や基質から判断して砂礫層 B に酷似する。厚さから判断して、D 孔と E 孔は砂礫層 A・B の両層が堆積している可能性がある。

④ シルト-砂互層に着目すると、高石股沢流域ではシルトが優勢であるが、藤ヶ股沢流域では砂が優勢で、かつ礫質堆積物が目立つ。C 孔では細粒砂-粗粒砂互層から砂礫層へと礫質堆積物が優勢となり、E 孔では粘土層の挟在する亜円礫～亜角礫を含む礫混じりの砂層が堆積する。この C 孔と E 孔での礫質堆積物は、藤ヶ股沢を流下した土石流によるものであって、舌状の微高地を形成していると考えられる。なお、B 孔や C 孔では礫質堆積物の直下に木片を含む有機質シルト層が堆積する。

⑤ 藤ヶ股沢の谷底の D 孔では上半部に軟弱な砂質シルト層が堆積する。シルト層は全体的に木片が含まれ、特に下底には木片が密集していて、C 孔や E 孔での礫質堆積物と層相が異なる。

ところで、第 5 図-C には高石股沢の上流域を、第 6 図-D には藤ヶ股沢の上流域を示した。いずれも横断面が幅広い箱形の谷底を呈する支流である。高石股沢では上流の十志和（標高約 100m）までの約 3 km にわたって幅 100～200m の平坦な谷地形をなす。平均径 10～30cm 大の安山岩質の亜円礫～亜角礫を含み、暗灰色～暗褐色の淘汰不良の砂や砂質土を基質とする塊状無層理の礫質堆積物が露出している。藤ヶ股沢も約 1.5km 上流まで、後背地の基盤岩が反映して砂優勢の礫質堆積物で堆積され、E 孔のコア堆積物に酷似する。なお、下流の蟹田小国品吉を流れる支流も同様であり、砂泥質の堆積物が露出する。

#### E：岩井段丘（仮称）

蟹田川下流域に分布する岩井段丘は半島北部に分布する V m 面に相当し、縄文海進（MIS 1）に形成されたとする吾妻（1995）を踏襲する。

岩井段丘は標高 12～13m が平坦面であって、蟹田小国岩井付近に 200～300m とやや幅広く分布するほか、流域沿いでは大平山元遺跡近くの旧大山小学校グラウンド跡地（標高 17～18m）のように小規模に点在する。なお、沖積低地には比高約 5～6m の段丘崖で臨む。蟹田小国岩井より下流側では沖積低地が広く展開し、蟹田川が大きく蛇行しながら陸奥湾に向かって流れる。

第 15 図は外ヶ浜町ライスセンターのボーリング地質柱状図である。蟹田小国岩井（第 2 図-G 地点）にあつて、標高が約 12m あり、河床面から比高約 5m の岩井段丘上に位置する。

蟹田層（深度約 21m）直上には砂礫層（厚さ約 2m）とシルト優勢のシルト-砂互層（約 18m）が堆積する。砂礫層は亜円礫～亜角礫を多く含み、淘汰不良の砂を基質とし有機質な砂質シルト層を挟在する。シルト-砂互層は全体的に軟弱な堆積物であつて、層相から 3 層に区別できる。下部層は N 値 2 の暗灰色の有機質なシルト-細砂互層（約 5m）からなり、砂礫層直上では礫の混入が、シルト層には腐植物の混入が目立つ。中部層は N 値 4 の暗灰色のシルト-細砂互層（約 5m）であつて、シルト優勢からシルト-砂互層へと変化して細～中礫を挟在する。上部層は N 値 0～2 の暗灰～暗緑灰色の有機質なシルト質粘土層（約 8m）であつて、泥分含有量が多く全体的に腐植物の混入が目立ち、シルト質砂層を挟在する。

なお、藤ヶ股沢流域（第 14 図）の F 孔（標高 13.5m、蟹田層；深度約 18m）は蟹田川の河床にあつて、下位には円礫～亜円礫を含む淘汰の悪い砂層（厚さ約 9m）が堆積する。層中には砂質シルト層が挟在し、深度による N 値の変化から礫層の挟在も想定される。表層近くの礫混じり砂層（約 9m）は比較的均質な細粒砂層であるが、層中には亜円礫～亜角礫を含む砂礫層（厚さ約

1 m) や砂質シルト層を挟在し、表層では礫や粘土塊の混入が目立つ。このF孔の特徴は蟹田小国岩井のG孔とは層相が大きく相違する。

### 3) 河成段丘の発達過程からみた蟹田川流域の地形発達

#### ① 河成段丘の発達史

上述の段丘の記載とこれまでの知見から蟹田川流域に分布する河成段丘の発達史を述べる。

平館山地の西麓には低丘陵地が分布していて、今別川が北流して三厩湾に注ぎ、蟹田川支流の高石股沢が南流して蟹田川に合流する。吾妻(1995)や水野・堀田(1992)は三厩湾岸や今別川流域に海洋酸素同位体ステージMIS 7(約20~22万年前)の間氷期に形成されたとする高位段丘を図示している。

高石段丘は、厚い基質支持の土石流堆積物と砂礫堆を形成した円磨度の高い礫質堆積物を構成層とする。高石段丘は高位段丘を刻む開析扇状地であり、洞爺火山灰Toyaと下位の火山灰層に被覆されることからMIS 6(約14~16万年前)の低海水準期に形成されたと考えられる。

館ノ沢段丘は蟹田川を境にして、左右両岸で構成層に相違がみられる。右岸では平坦面であり、円礫主体の砂礫層と砂層を構成層とする。左岸では高石段丘の南縁に4~5/100と勾配の大きい傾斜面として蟹田川に平行に分布する。詳細は不明であるが、亜角礫を含む基質支持の土石流堆積物を構成層の一部とする。Toyaの存在から最終間氷期最盛期MIS 5e(約12~13万年前)に形成されたと考えられる。

大平段丘は蟹田川の左岸にのみ分布し、土石流堆積物や砂礫堆を形成する礫質堆積物を構成層とする。高石股沢の谷口から蟹田川に向かって4~5/100と勾配のある南傾斜面をなす。

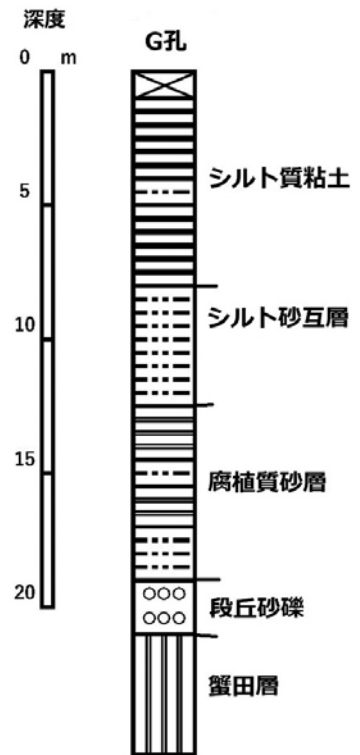
ボーリング資料では谷口寄りのB・C孔の砂礫層は亜角礫を主体とし、蟹田川本流寄りのD・E孔では円礫~亜円礫を主体とする。B・C孔の砂礫層の上面が4/100の勾配に対してD・E孔ではほぼ平坦面をなすことから、河川の運搬による礫質堆積物だけでなく、高石股沢や藤ヶ股沢で発生した土石流の流下も考えられる。

大平段丘は、大平山元I遺跡の遺物包含層からTo-HP(約1.2~1.3万年前)由来の火山ガラスが検出されることから、最終氷期最盛期MIS 2(約2万年前)頃に形成されたと考えられる。

山本段丘は蟹田川に沿って高石股沢から下流の蟹田小国品吉付近まで分布する。高石股沢や藤ヶ股沢など支流では舌状の微高地をなし、各支流間では緩傾斜面をなす。ボーリングによると、舌状の微高地では土石流堆積物など厚い砂礫層の直上に礫質堆積物を含む砂優勢のシルト-砂互層が堆積している。緩傾斜面は細粒砂が優勢のシルト-砂互層が堆積することから、土石流などの進行方向から逸れた浮遊性碎屑物の堆積の場であったと考えられる。

山本段丘の構成層は大平山元I遺跡の遺物包含層に被覆されることから、大平段丘の形成以後、To-HPの降下前に形成されたと考えられる。

そして、7000~8000年前頃、蟹田川は縄文海進により下流域が海面下に没した。温暖化に伴っ



第15図 蟹田小国岩井の地質柱状図

て降水量が増加したことから、上流から多量の浮遊性の碎屑物が供給され蟹田小国岩井付近にシルト優勢のシルト-砂互層としてこの溺れ谷を埋積したと考えられる。東京低地（木村ほか、2006）を参考にすると、互層のうち、下部層は基底礫層を覆う有機質の氾濫原堆積物と考えられる。中部層は海岸線が大きく湾入した頃の堆積物であり、上部層の有機質粘土層はデルタ性低地の環境下で堆積したと考えられる。

## ② 堆積段丘の特徴

蟹田川中流域に分布する河成段丘は以下の特徴を有する。

### ①平館山地の隆起による碎屑物の生産

津軽半島北部には第三紀層からなる山地が東西に存在する。津軽山地と東の平館山地であって、山地間には標高200m以下の低丘陵地が分布する。東西圧縮応力を受けて生じた褶曲構造により沈降域が鮮新世には隆起域の場に転じたことで、背斜部が山地になり向斜部には第四紀層が堆積した。蟹田層は第四紀更新世前期（258～79万年前）の堆積物であり、向斜部では幅の狭い分布を示すが、平館山地の南麓では沈み込みにより分布域が拡大する（岩井・根本、1992）。

また、平館山地縁辺のⅢm面の旧汀線高度をみると、北端に位置する高野崎から今別川流域にかけては標高20～41mと南西側に大きく傾動している。陸奥湾岸では平館で22m、その後次第に高度を下げ今津で約15m、今津～蟹田間で途絶えるものの蟹田で標高26mと復活する（吾妻、1995）。Ⅲm面の旧汀線高度の変位から、更新世中期（79～13万年前）でも平館ドームの隆起運動が継続していたと考えられる。また、蟹田層の分布域が背斜軸寄りでも拡大したり今津～蟹田間のⅢm面が欠落したりと、吾妻（1995）の指摘のように南北方向の変動も存在する。

このような地盤の変動により落石や斜面崩壊、地すべりなどマスマーブメントが多発したと考えられ、下刻作用が促進されただけでなく山地斜面や藤ヶ股沢などの谷壁が崩壊して碎屑物が大量に生産された。一方、支流にみられる埋積谷は南麓の沈み込みに伴い河川の運搬力が低下することで谷底内の碎屑物が急激に増加して形成されたと考えられる。

### ②気候の寒冷化による碎屑物の生産

奥羽脊梁山脈には最終氷期最盛期MIS 2に形成された堆積段丘が分布する。豊島（1994）や小岩（2005）によると、氷期中の夏季モンスーンに伴う流水による碎屑物の供給や土石流堆積物が段丘の形成に大きく関与し、さらに最終氷期最盛期以降の温暖化に伴う豪雨頻度の増加で下刻作用が促進され流送された土砂の堆積の場が下流域へと移行すると論じている。

大平段丘はMIS 2頃に形成された堆積段丘と考えられる。構成層は、基質支持の土石流堆積物と掃流による礫支持の砂礫層からなり、To-HP起源の火山ガラスを含む遺物包含層に被覆される。山本段丘は蟹田川流域ではシルト-砂互層で構成され、支流内では基質支持の砂礫層からなる。大平段丘は氷期中の降雨や温暖化に伴う豪雨の影響により支流内に堆積した碎屑物が下流側に運搬されたことで形成され、山本段丘は引き続き豪雨の影響により谷口付近には礫質堆積物が定着し、蟹田川流域には流送された浮遊性の細粒碎屑物が定着し河成段丘として形成されたと考えられる。

### ③ 中流域の地形発達

最後に、蟹田川中流域の地形発達について述べる。

約2万年前の最終氷期最盛期の頃、高石股沢や藤ヶ股沢などの支流では地盤の隆起運動の影響もあって斜面崩壊や下刻作用の促進によって碎屑物が大量に生産された。さらに、氷期中の運搬力の低下もあって生産された碎屑物が谷底に蓄積される。氷期中の降雨やその後の温暖化に伴う豪雨によってこれらの碎屑物が下流側へと流下、移動する。蟹田川の左岸では各支流から供給された礫質堆積物が蟹田川に向かって舌状に張り出すように定着して大平段丘が誕生した。

大平段丘形成後も碎屑物の供給は続く。今別安山岩類を基盤とする西麓を流れる高石股沢では礫質碎屑物が目立ち、他の支流では基盤岩の小泊層を反映して全体的に浮遊性の細粒碎屑物が優勢である。支流から供給された碎屑物のうち、礫質部分は谷口から古蟹田川に向かって張り出すように定着するが、浮遊性の細粒碎屑物はシルト-砂互層として大平段丘の前縁部を被覆しながら蟹田川本流へと流送され緩傾斜な山本段丘を形成した。各支流に展開した山本段丘が連結し中流域に河成段丘として分布する。大量の碎屑物が蟹田川の中流域に定着したために、その流路は大きく南へ偏ることになる。

十和田八戸軽石To-HPの噴火前にはすでに大平段丘や山本段丘が完成していて、この地を生活の場とした大平山元遺跡が誕生したと考えられる。

### おわりに

本稿を執筆するにあたって、弘前大学教授 小岩直人氏からは査読を通して多くの適切なご指摘をいただき、また章立てなどの文章構成までご教示いただきました。お陰様で本文が大幅に改善され充実した内容になりました。外ヶ浜町教育委員会社会教育課世界遺産対策室からは発掘関連の文献や写真の提供だけでなくドローンによる撮影など多大なご協力をいただきました。また、図版の作成にあたって開成技術株式会社社長 故古川克彦氏、並びに同社社員のご協力をいただきました。これらの方々、並びに関係機関に心から感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

- 吾妻 崇 (1995) 変動地形からみた津軽半島の地形発達史, 第四紀研究34.
- 宮内崇裕 (1988) 東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年, 地理学評論61.
- 中川久夫 (1972) 青森県の第四系, 青森県地質説明書第2部, 青森県.
- 大沢 穠・三村弘二 (1993) 20万分の1地質図 青森, 第2版, 通産省工業技術院地質調査所.
- 箕浦幸治・小菅正裕・柴 正敏・根本直樹・山口義伸 (1998) 青森県の地質, 青森県商工観光労働部鉱政保安課.
- 豊島正幸 (1994) わが国における最終氷期後半の広域的な侵食段丘の形成, 季刊地理学46巻.
- 小岩直人 (2005) 宮城県名取川上流域における最終氷期の堆積段丘発達過程, 地理学評論78-7.
- 木村克己・石原与四郎・宮地良典・中島 礼・中西利典・中山俊雄・八戸昭一 (2006) 東京低地から中川低地に分布する沖積層のシーケンス層序と層序の再検討, 地質学論集59号沖積層研究の新展開, 日本地質学会.
- 青森県 (2001) 青森県史 自然編 地学.
- 長谷浩明 (1963) 津軽半島の海岸段丘, 東北地理15.
- 青森県立郷土館 (1980) 大平山元Ⅱ遺跡発掘調査報告書 (本文編), 青森県立郷土館調査報告書8 (考古-4).
- 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団 (1999) 大平山元Ⅰ遺跡の考古学調査.
- 蟹田町教育委員会 (1992) 大平山元Ⅱ遺跡発掘調査報告書.
- 蟹田町教育委員会 (2003) 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2002年発掘調査-.
- 蟹田町教育委員会 (2004) 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2003年発掘調査-.
- 蟹田町教育委員会 (2004) 大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線 (大平工区) 道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書.
- 蟹田町教育委員会 (2005) 大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線 (大平工区) 道路改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ.
- 外ヶ浜町教育委員会 (2006) 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2000年~2004年発掘調査-.
- 外ヶ浜町教育委員会 (2007) 大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線 (大平工区) 道路改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ.
- 外ヶ浜町教育委員会 (2011) 大平山元 -旧石器時代から縄文時代への移行を考える遺跡群-.
- 外ヶ浜町教育委員会 (2019) 史跡大平山元遺跡.
- 水野 裕・堀田報誠 (1992) 地形分類図5万分の1図幅, 青森県農林部農村計画課編, 土地分類基本調査「龍飛崎・蟹田」, 青森県.
- 岩井武彦・根本直樹 (1992) 表層地質図5万分の1図幅, 青森県農林部農村計画課編, 土地分類基本調査「龍飛崎・蟹田」, 青森県.
- 地学団体研究会編 (1996) 新版地学事典, 平凡社.
- 鈴木隆介 (2000) 建設技術者のための地形図読図入門第3巻, 段丘・丘陵・山地, 古今書院.
- 青森県 (2017) 青森県史 資料編 考古1 (旧石器・縄文草創期~中期).
- 山口義伸 (1979) 遺跡周辺の地形と遺跡の分布, 大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書, 青森県立郷土館調査報告書5・(考古-2).
- 山口義伸 (2024) 蟹田層を不整合に覆う重力流堆積物について, 青森地学68、青森県地学教育研究会.

- (独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東北新幹線建設局 (2007) 北海道新幹線,  
大平外1地区地質調査報告書, 東建役18 第15号.
- (株) 八洲建築設計事務所 (2018) 委第20号 外ヶ浜町ライスセンター建設工事設計業務委託地質  
調査報告書.

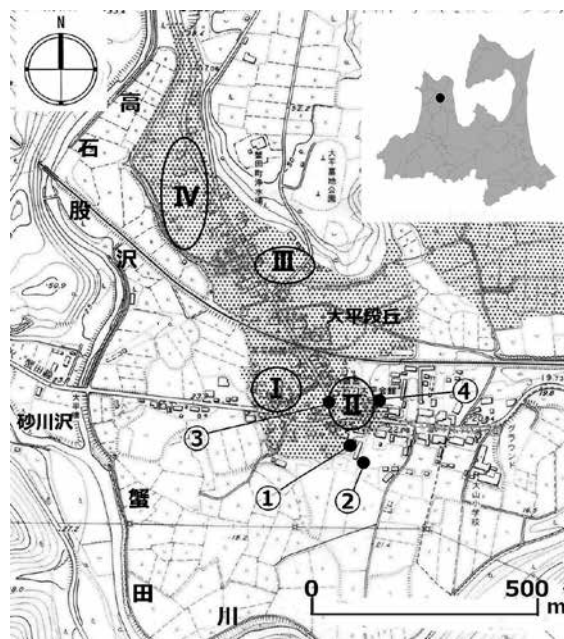
## ②大平山元遺跡における遺物の出土層

山口 義伸

### 1) 遺跡の位置と地形

大平山元遺跡は平館山地の南麓を流れる蟹田川の中流域に位置する。中流域では津軽山地を源流とする砂川沢や大川目沢、平館山地を流れる高石股沢が合流する。大平山元 I・II 遺跡は高石股沢から舌状に張り出す大平段丘（標高23～26m）に立地する。前面には山本段丘が分布し、南側を蟹田川が大きく迂回して東流する（第1図）。大平段丘には流水路跡と考えられる谷状凹地が存在し（第1図①地点、第2図）、主要地方道今別蟹田線が凹地上を通る。凹地を境に西には縄文時代草創期の大平山元 I 遺跡が、東の小丘地には後期旧石器時代の大平山元 II 遺跡が立地する。なお、上流側には大平山元 III 遺跡や大平山元 IV 遺跡も立地する。

大平段丘は最終氷期最盛期MIS2（約2万年前）に形成された堆積段丘と考えられる（吾妻、1995）。標高23～35m、4～5/100と勾配の大きい南傾斜面であって、河川の運搬作用、特に掃流によって、また土石流などによって供給された礫質堆積物を構成層とする。谷状凹地は下底に葉理の弱い細粒砂層を伴う火山灰質土層（基本土層第IV層）で埋積され、砂礫堆を刻む。山本段丘は、高石股沢では標高20～22mの舌状の微高地をなす。砂が優勢のシルト-砂互層からなり、大平段丘を構成する砂礫層を覆う。藤ヶ股沢にかけては標高18～19mの緩傾斜面として分布し、浮遊性のシルト-砂互層を構成層とする。



第1図 遺跡の位置

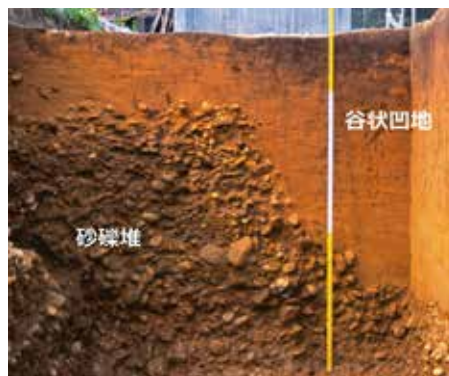
（蟹田町土地利用図1/5000を使用）

I～IVは大平山元 I～IV 遺跡、①②は土層、③は出土石器群、④はボーリングの位置を示す。

### 2) 遺跡内の基本土層

津軽半島には十和田火山を起源とする火山灰が広く分布するが、半島北部では全体的に薄い。吾妻（1995）は最終間氷期最盛期MIS5eに形成された館ノ沢段丘の被覆火山灰層中に広域火山灰である洞爺火山灰Toya（噴火；約10～13万年前）を確認し、また大平段丘が十和田八戸軽石To-HP（約1.2～1.3万年前）に被覆されると述べている。

第3図は大平山元 I 遺跡における基本土層の断面である。上部には遺物包含層を含めた褐～暗褐色火山灰質土層が堆積し、火山灰分析を実施した。基本土層中には火山ガラスの濃縮層準が認められなかったが、To-HP由来の火山ガラスを多く検出することができた（外ヶ浜町教育委員会、2006）。



第2図 大平段丘を刻む谷状凹地  
（第1図①）

下部には大平段丘を構成する砂礫層が堆積し、下位の砂礫層Aは土石流堆積物であり、砂礫層Bは砂礫堆をなしている。

第4図は山本段丘を構成する土層断面である(第1図②地点)。上部には大平山元I遺跡の基本土層である火山灰質土層が確認でき、下部には段丘構成層であるシルト-砂互層が堆積する。

基本土層の第IV層は洪水による堆積物であって、大平段丘の谷状凹地を流下し、低位の山本段丘をも被覆したと考えられる。

なお、第IV層直下には腐植質土層が堆積する。古土壌と考えられ、いずれも細粒砂層やシルト層に被覆されている。

次に、大平山元I遺跡における基本土層について、外ヶ浜町教育委員会(2007)が実施した発掘調査の成果などを踏まえて述べる。

第I層；黒色土 耕作土。伐根などにより

下位層を攪乱し、大きく削平している。

第II層；暗褐色土 漸移層。やや土壌化の進んだソフトな火山灰質土を呈するが、局所的な分布であるため詳細は不明である。土層断面(第3図)をみると、攪乱を受けた本層は上部ほど細粒化するが、全体的には腐植土塊や炭化粒、火山灰質土塊を含み締りに欠けブロック状の割れが目立つ。下位の第III層と同様に本層から縄文時代草創期の遺物が出土するものの、To-HPに由来する火山ガラスが本層から集中的に検出される。なお、十和田大不動軽石To-Of起源の火山ガラスも検出されるが、きわめて少なく二次的に供給されたと考えられる。

第III層；褐色土 全体的に火山灰質土である。下位層の風化層と考えられるが、拳大の火山灰質土塊もみられ、乾くとブロック状に割れる。第II層とは凹凸のある境界面で接しクラックが存在するが、攪乱により欠如することが多い。縄文時代草創期の遺物包含層と考えられ、土器付着の炭化物からは $13,210 \pm 170\text{yrBP}$ 、 $13,030 \pm 170\text{yrBP}$ 、 $12,720 \pm 160\text{yrBP}$ の $^{14}\text{C}$ 年代値が得られた。ただ、本層から採取された炭化樹木試料からは $7,710 \pm 40\text{yrBP}$ 、 $7,010 \pm 40\text{yrBP}$ および $13,480 \pm 70\text{yrBP}$ の $^{14}\text{C}$ 年代値が得られバラツキがみられる(大平山元I遺跡発掘調査団、1999)。To-HP由来の火山ガラスが検出されたが、その含有量が極めて少ない(蟹田町教育委員会、2004)。

第IV層；暗褐色土 粘性のある塊状の火山灰質土(層厚30~40cm)である。第IV a層は火山灰質であるが、下部の第IV b層は細粒砂が優勢となり直下に葉理の発達した細粒砂層が付随する。

本層は段丘面上では薄く谷状凹地内で厚く堆積することから洪水による堆積物と考えられる。

第V層；砂礫層 基本土層の下位には段丘構成層である砂礫層(厚さ約100cm)が堆積する(第2・3図)。挟在するレンズ状の成層砂層を境にして2層に区分できる。上部の砂礫層Bは酸



第3図 大平山元I遺跡の土層断面図  
(外ヶ浜町教育委員会提供)



第4図 山本段丘を覆う火山灰質土層(第1図②)  
(外ヶ浜町教育委員会提供)

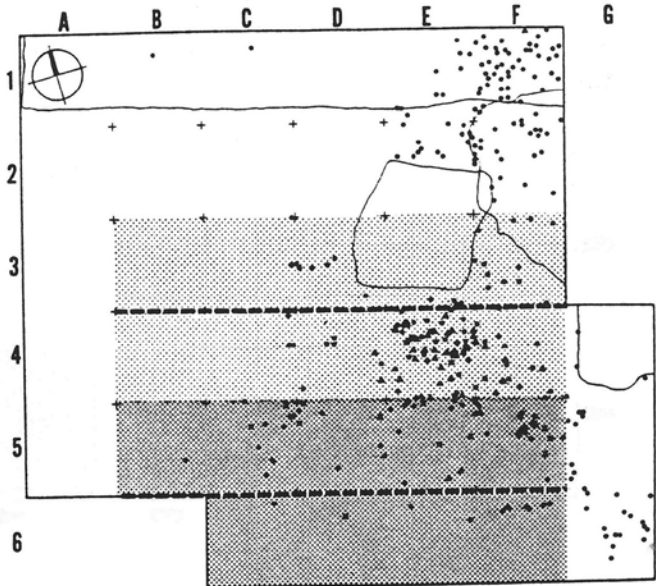
化により暗赤褐色を呈し、礫にインブリケーションの特徴がみられ砂礫堆を形成していたと考えられる。下部の砂礫層Aは暗灰緑色を呈し、淘汰の悪い砂を基質とする基質支持の土石流堆積物と考えられる。

### 3) 大平山元遺跡における遺物の出土層

#### ① 大平山元 I 遺跡

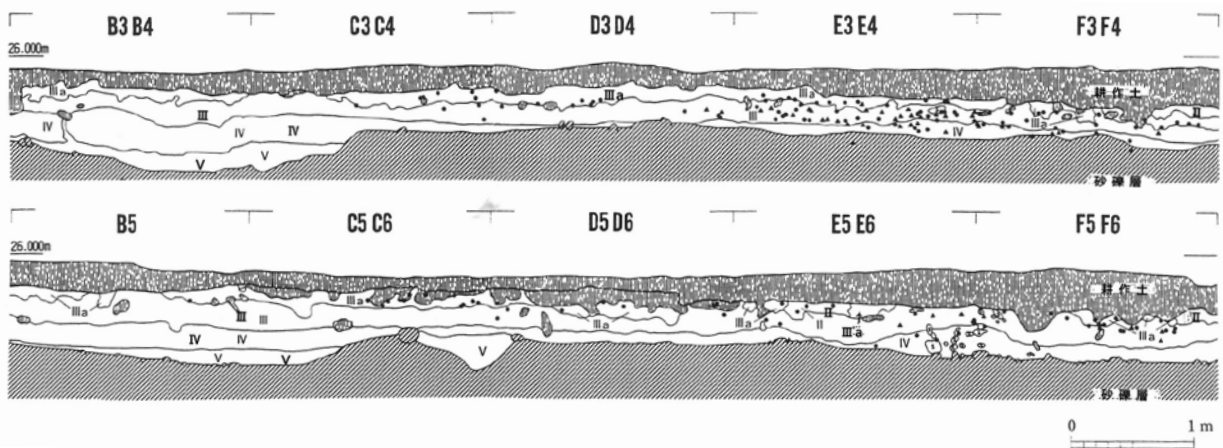
大平山元 I 遺跡は高石股沢の流域に面した大平段丘上に立地する。出土遺物が密集する地点は緩やかな頂部にあつて、西端は約 2 m の段丘崖で山本段丘に臨み、東方は谷状凹地に向かって、緩やかに傾斜している。

第 5 図は出土遺物の平面図である。縄文時代草創期の遺物は頂部にあたる C～G-0～6 の範囲に集中していて、密集地からは大きく湾曲する蟹田川の流が眺望できる。第 6 図には遺物の出土区域における東西の土層断面 (B～F-3～4、B～F-5～6) を示した。遺物の出土地点はもともと宅地や水田跡であつて、D～F-5～6 付近の攪乱を除くと、第 II 層まで削平されている (蟹田町教育委員会、1999)。



凡例；●石器 ▲土器 (長者久保文化期)

第 5 図 大平山元 I 遺跡の出土遺物の平面図  
(大平山元 I 遺跡発掘調査団、1999)



凡例；●石器 ▲土器 (長者久保文化期)

第 6 図 大平山元 I 遺跡の土層断面図 (蟹田町教育委員会、1998)

土層断面をみると、基本土層の第Ⅲ層が主たる縄文時代草創期の遺物包含層と考えられるが、全層的な分布を示している。第Ⅱ層の詳細は不明であるが、宅地の整地などの攪乱だけでなく凍結融解による擾乱も考慮する必要がある。半島南部ではTo-HP直下の火山灰質土層に周氷河インボリューションが存在することから（島口、2017）、第Ⅲ層の層相や出土遺物の垂直分布、第Ⅳ層からの出土に関してはクリオターベーションにより表層部が複雑に変位・変形し、その不規則な表面を被覆する第Ⅱ層も何らかの影響を受けた可能性もある。

なお、遺物密集地では第Ⅲ層～第Ⅳ層の厚さが20～30cmと薄く、底部には凹凸のある砂礫層が露出する（第6図）。B～C間には南北性の浅い溝状の凹地が認められ、第Ⅳ層と第Ⅴ層（基本土層の細粒砂層）で埋積されている。この溝状の凹地は段丘面上を流れる小規模な流水路跡であり、埋積物は段丘面が冠水したときの定着物と考えられる。

## ② 大平山元Ⅱ遺跡

大平山元Ⅱ遺跡は大平段丘の南東側にあたる小丘状の砂礫堆上に立地する（第1図）。北側には楔状にくだんだ山本段丘が分布し、大平山元Ⅲ遺跡（標高29～34m）との境界をなす。遺跡内には八幡宮があり、拝殿および本殿は削平された砂礫堆の頂部であって、緩やかな南斜面が参道となる。

青森県立郷土館（1980）は拝殿から参道にかけての東側を、外ヶ浜町教育委員会（2006）はその北側を発掘調査（ピット4地点）した（第7図）。また、出土遺物の層位と範囲を確認するために東斜面におけるボーリング調査（第1図④地点）とトレンチ調査も実施した（外ヶ浜町教育委員会、2019）。

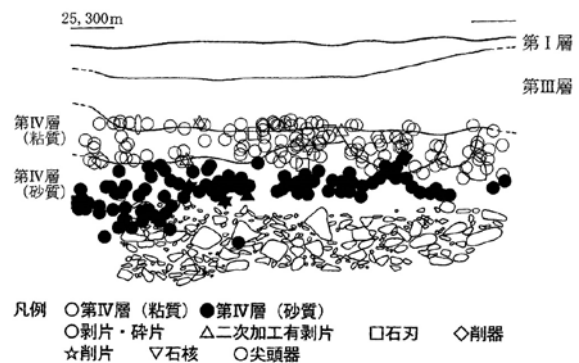
第8図は出土遺物の垂直分布を示す。基本土層の第Ⅳ層（第Ⅳa層・第Ⅳb層）が後期旧石器時代の遺物包含層であるが、厚さ約40cmの包含層から出土する遺物には帰属時期の差異が認められない。

また、砂礫堆直上からは石組炉が2箇所検出され（青森県立郷土館、1980）、小丘地西方の谷状凹地（第1図③地点）の砂礫層直上から石器群の出土が報告されている（外ヶ浜町教育委員会、2005）。外ヶ浜町教育委員会（2007）が指摘しているように、遺物包含層である第Ⅳ層が洪水による定着物であって、砂礫層直上を生活面としていた後期旧石器時代の遺物が第Ⅳ層に取り込まれたと考えられる。なお、包含層からはTo-Of由来の火山ガラスが検出されるが、To-HPに関しては検出されていない。

青森県立郷土館（1980）は八幡宮の拝殿脇の発掘調査で第Ⅱ層や第Ⅲ層も包含層であるとし



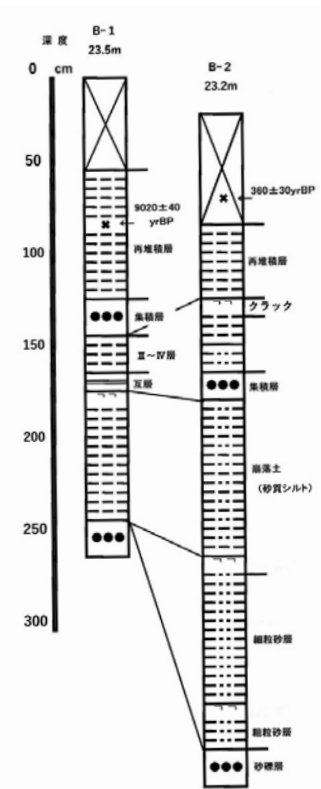
第7図 発掘調査区域  
（外ヶ浜町教育委員会、2019）



第8図 出土遺物の垂直分布図（ピット4地点）  
（外ヶ浜町教育委員会、2006）

たが、その後の調査では第IV層の出土遺物と帰属時期の差異が認められず、第II層から採取された炭化物からは $4,350 \pm 30\text{yrBP}$ 、 $4,440 \pm 30\text{yrBP}$ と後期旧石器時代の遺物の年代と大きく乖離した $^{14}\text{C}$ 年代値が得られた（外ヶ浜町教育委員会、2019）。

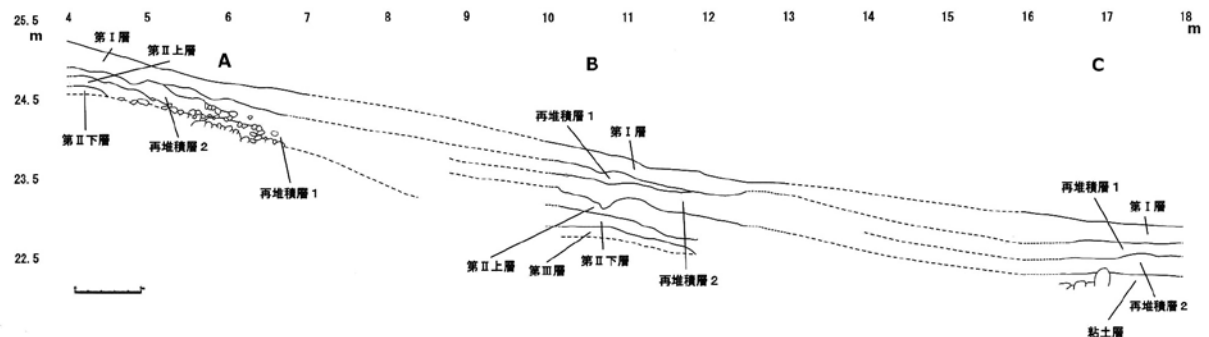
第9図はボーリングによる地質柱状図である（第7図）。ボーリングB-1（標高23.5m）では深度約2.4m（標高21.1m）、B-2（標高23.2m）では深度約3.5m（標高19.7m）で砂礫層に達する。ボーリング地点は砂礫堆から山本段丘にかけての斜面であり、B-2には山本段丘を構成する砂優勢のシルト-細粒砂互層（厚さ約100cm）が堆積していると考えられる。B-1では崩落土と考えられる塊状無層理の火山灰質土層（厚さ約70cm）が砂礫層を被覆し、炭化物だけでなく円礫、シルト塊などが混入する。上位には混入物が集中する箇所（以下、集積層と呼ぶ）もあって、この集積層を境に下位層が第II層~第IV層に、上位層の暗褐色~灰褐色シルト層が後述の再堆積層に相当すると考えられる。再堆積層から採取した炭化物からは $9,020 \pm 40\text{yrBP}$ の $^{14}\text{C}$ 年代値が得られた。



第9図 地質柱状図

第10図は青森県立郷土館（1980）の調査区（第7図）から東へ20m以上も延びる緩傾斜面に設定したトレンチの土層断面である。ト

レンチ内の第I層~第II層間には流れ込みによる火山灰質土層（再堆積層と呼称）があり、褐色火山灰質土（再堆積層1）と黒褐色土（再堆積層2）に細分される。再堆積層は参道脇のAトレンチではブロック状に割れ、Bトレンチでは50~60cmと厚く、Cトレンチでは粘土質でシルト-細粒砂互層に変化する。再堆積層からも後期旧石器時代の遺物が出土するが、斜面上では再堆積層~第II層に集中し、第III層からの出土は稀である。大平山元II遺跡の遺物は段丘構成層である砂礫層直上からの出土であって、洪水によって第IV層に取り込まれたと考えられる。ただ、再堆積層や第II層（青森県立郷土館（1980）指摘の第II層も含む）からの出土に関しては砂礫堆の崩落や洪水による遺物包含層の流出、あるいは八幡宮の造営に係る削平や排土、整地など人為的要因も考慮する必要がある。



第10図 平成29年度発掘調査の土層断面図

## まとめ

本稿では外ヶ浜町教育委員会による発掘調査の成果やボーリング資料など、これまでの知見をもとにして大平山元遺跡の出土遺物の層位について再検討した。

大平山元Ⅰ遺跡では第Ⅲ層が縄文時代草創期の遺物包含層と考えられる。ただ、第Ⅱ層からの出土に関しては第Ⅱ層～第Ⅲ層の攪乱だけでなく周氷河地域におけるクリオターベーションによる表層堆積物の複雑な変位や変形も影響していると考えられる。なお、第Ⅱ層からTo-HP由来の火山ガラスが集中して検出されることから、遺物は層位的にみてTo-HPの降下前と考えられる。

大平山元Ⅱ遺跡では段丘構成層である砂礫層直上が後期旧石器時代の遺物の出土層位であると考えられる。砂礫堆間の流水路跡に厚く堆積する第Ⅳ層は洪水による定着物であって、冠水した大平段丘面上に取り込まれた遺物とともに火山灰質土として定着したと考えられる。

## おわりに

本稿を執筆するにあたって、外ヶ浜町教育委員会社会教育課世界遺産対策室からは発掘関連の文献や写真の提供をいただき、また対策室室長補佐駒田 透氏からは発掘に関する詳細な情報も提供いただきました。図版の作成にあたって開成技術株式会社会長 故古川克彦氏、並びに同社社員のご協力をいただきました。これらの方々、並びに関係機関に心から感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

青森県立郷土館（1980）大平山元Ⅱ遺跡発掘調査報告書（本文編），青森県立郷土館調査報告書8（考古-4）。

大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団（1999）大平山元Ⅰ遺跡の考古学調査。

蟹田町教育委員会（1992）大平山元Ⅱ遺跡発掘調査報告書。

蟹田町教育委員会（2003）大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2002年発掘調査-。

蟹田町教育委員会（2004）大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2003年発掘調査-。

蟹田町教育委員会（2004）大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線（大平工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。

蟹田町教育委員会（2005）大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線（大平工区）道路改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ。

外ヶ浜町教育委員会（2006）大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書-2000年～2004年発掘調査-。

外ヶ浜町教育委員会（2007）大平山元Ⅱ遺跡-主要地方道鱒ヶ沢蟹田線（大平工区）道路改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ。

外ヶ浜町教育委員会（2011）大平山元-旧石器時代から縄文時代への移行を考える遺跡群-。

外ヶ浜町教育委員会（2019）史跡大平山元遺跡。

吾妻 崇（1995）変動地形からみた津軽半島の地形発達史，第四紀研究，34。

山口義伸（1979）遺跡周辺の地形と遺跡の分布，大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書，青森県立郷土館調査報告書5・（考古-2）。

青森県（2017）青森県史 資料編 考古1（旧石器・縄文草創期～中期）。

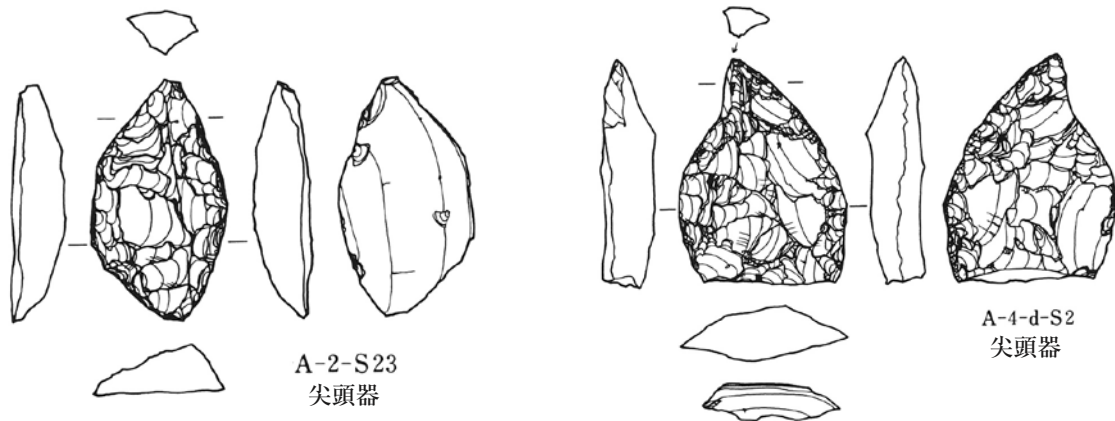
島口 天（2017）青森市岡町宮本における化石周氷河現象，地球科学71。

### ③大平山元遺跡出土黒曜石の分析結果

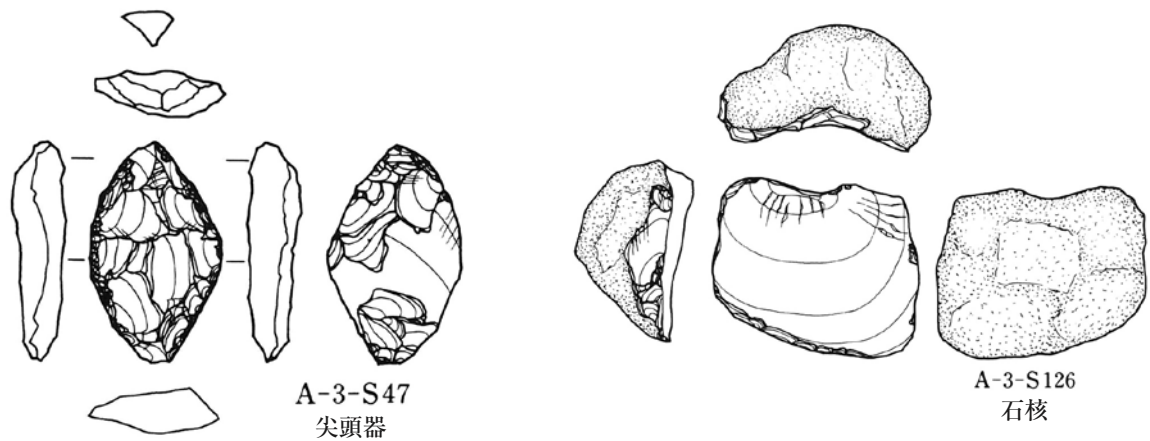
東京都立大の出穂氏は、黒曜石遺物の産地分析を進めており、今回大平山元遺跡出土の黒曜石遺物を試料とし分析を試みた。詳しくは、2025年3月発行の青森県立郷土館研究紀要第49号を参照していただき、ここでは、町所有分の試料のうち新知見の得られた結果のみを引用する。

尖頭器3点と石核1点について、白滝赤石山産と出来島産との分析結果が得られた。白滝赤石山産の黒曜石が利用されていたことは、これからの大平山元遺跡の研究にとって大きな成果である。

出来島産



白滝赤石山産



縮尺不同

## 4 管理運営

### (1) 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
人数	1,053 名	1,918 名	1,048 名	919 名	1,233 名	1,165 名	1,070 名	441 名	89 名	114 名	95 名	9,145 名

※ 8月12日（祝・月）は大型の台風の接近のための警報発令によって午後臨時休館とした。

7月31日（水）5,000人記念セミナー開催

### (2) 費用

展示施設管理運営費（職員の人件費に関するものは除く）2月28日現在

需用費 2,612千円

役務費 176千円

委託料 1,662千円

備品購入費 409千円

## 5 組織・団体

### (1) 職員構成

館長：津嶋 暢（社会教育課長兼世界遺産対策室長）

職員：駒田 透（世界遺産対策室長補佐兼学芸員）

福士 伸也（社会教育課兼世界遺産対策室班長）

成田 竣（世界遺産対策室主査兼学芸員）

笹木三津子（むーもん館用務員：会計年度任用職員）

### (2) 大平山元遺跡もりあげ隊

一般社団法人大平山元遺跡もりあげ隊は、「大平山元遺跡」のガイドや、大平山元遺跡展示施設むーもん館のミュージアムショップの運営を行っている。そのほか、SNSでの情報発信や、むーもんマルシェ、むーもんフェスタなどのおもてなしイベントの運営に参画し、世界遺産大平山元遺跡のもりあげ活動を通じて、町の地域振興に貢献している。2019（令和元）年に発足し2024（令和6）年に一般社団法人化している。会員9名、ガイド11名が在籍している。

## 6 利用案内

名称 大平山元遺跡展示施設むーもん館

住所 東津軽郡外ヶ浜町蟹田大平沢辺46-4

電話 0174-22-2577

開館時間 午前9時から午後4時まで

休館日 月曜日（祝日等の場合はその翌日）12月29日から翌年1月3日まで  
臨時に休館する場合があります

観覧料 一般300円（大学生以下無料）20名以上の団体は200円 各種手帳による割引150円

## 7 条例・規則

### (1) むーもん館設置条例

令和6年3月14日

条例第3号

(設置)

第1条 史跡大平山元遺跡の理解の促進や普及・啓発、保護・活用を図るため、大平山元遺跡展示施設むーもん館（以下「展示施設」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 展示施設の名称は、次のとおりとする。位置は、別表第1のとおりとする。

(1) 名称 大平山元遺跡展示施設むーもん館

(管理及び運営)

第3条 展示施設は、外ヶ浜町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(観覧料)

第4条 展示施設の観覧料は、別表第2のとおりとする。

2 前項に規定する観覧料は、前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときはこの限りでない。

(観覧料の減免)

第5条 教育委員会は、公益上必要があると認められるとき、その他特別の理由があると認めるときは、その申請により観覧料を減額し、又は免除することができる。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、展示施設の管理運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

#### 別表第1（第2条関係）

名 称	位 置
大平山元遺跡展示施設むーもん館	外ヶ浜町字蟹田大平沢辺46番4
大平山元遺跡展示施設むーもん館駐車場	外ヶ浜町字蟹田大平沢辺55番5 外ヶ浜町字蟹田大平沢辺69番1 外ヶ浜町字蟹田大平沢辺73番2 外ヶ浜町字蟹田大平沢辺314番

#### 別表第2（第4条関係）

区 分	個 人	20人以上の団体1人につき
一 般	300円	200円
大学生・高校生以下	無 料	無 料

## (2) むーもん館管理運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大平山元遺跡展示施設むーもん館設置条例（令和6年外ヶ浜町条例第3号。以下「条例」という。）第6条に基づき、大平山元遺跡展示施設むーもん館（以下「展示施設」という。）の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 展示施設は、次の業務を行う。

- (1) 大平山元遺跡の調査及び研究に関すること。
- (2) 大平山元遺跡の保存及び活用に関すること。
- (3) 大平山元遺跡や埋蔵文化財に関する知識の普及及び啓発に関すること。
- (4) 大平山元遺跡の整備に関すること。
- (5) その他展示施設の設置目的を達成するために必要な事業
- (6) その他の教育普及活動

(職員)

第3条 展示施設に館長その他必要な職員を置くことができる。

(職務)

第4条 館長は、上司の命を受けて展示施設の業務を掌握し、所属職員を指揮監督する。

2 職員は、上司の命を受けて分担事務等処理する。

(開館時間及び休館日)

第5条 展示施設の開館時間は、原則として午前9時から午後4時までとする。ただし、外ヶ浜町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認めたときは、これを適宜変更することができる。

2 展示施設の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めたときは、臨時に休館することができる。

- (1) 年始（1月1日から1月3日まで）
- (2) 年末（12月29日から12月31日まで）
- (3) 毎週月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日（以下「休日」という。）にあたる時は、その翌日とする。）

3 教育委員会は、前項の規定にかかわらず必要と認めたときは、休館日に開館することができる。

(観覧料の還付)

第6条 災害その他不可抗力により展示資料の観覧ができなくなったときは、条例第5条ただし書の規定により、既納の観覧料の全額を還付する。

2 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書（別記様式第1号）を教育委員会に提出しなければならない。

3 教育委員会は、前項の申請により観覧料の還付を決定したときは、観覧料還付決定通知書（別記様式第2号）により当該申請者に通知する。

(観覧料の減免)

第7条 条例第6条の規定により減額し、又は免除する観覧料の額は、次のとおりとする。

- (1) 当町が主催する行事に使用するとき 観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳、愛護手帳、療育手帳若しくは精神障害者保健福祉手帳又は戦傷病者手帳の交付を受けている者（当該交付を受けている者に介護人がある場合にあっては、介護人1人を含む。）が観覧するとき 観覧料の5割に相当する額（当該相当する額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げた額とする。）
- (3) その他教育委員会が特に必要があると認めるとき 教育委員会が定める額

(減免の申請)

第8条 観覧料の減額又は免除を受けようとする者は、観覧料減免申請書(別記様式第3号)を教育委員会に提出しなければならない。ただし、前条第1号から第2号までの規定により減額又は免除を受けようとする者については、この限りでない。

2 教育委員会は、前項の申請により観覧料の減額又は免除を決定したときは、観覧料減免決定通知書(別記様式第4号)により当該申請者に通知する。

(行為の禁止)

第9条 展示施設においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 展示施設の施設、設備等を損傷し、又は滅失すること。
- (2) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。
- (3) 許可なくして展示資料等の写真撮影又は拓本複写等の行為をすること。
- (4) 許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為をすること。
- (5) 許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。
- (6) 展示施設及び敷地内において喫煙すること。
- (7) 所定の場所以外において火気を使用すること。
- (8) その他展示施設の管理に支障がある行為

2 前項第3号の許可を受けようとする者は、資料特別利用許可申請書(別記様式第5号)を教育委員会に提出しなければならない。

3 教育委員会は、前項の申請書を受理した場合において、これを許可したときは、当該申請者に資料特別利用許可書(別記様式第6号)を交付する。

(入館者の厳守事項)

第10条 入館者は、資料館の観覧又は利用に当たっては、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 展示施設の施設、設備、備品等を滅失し、又は破損しないこと。
- (2) 展示施設における清潔及び整頓を保持すること。
- (3) 展示施設における風紀及び秩序を乱さぬこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が定める行為

(入館の拒否)

第11条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否し、又は退去させることができる。

- (1) 感染性疾患に感染していると認められる者
- (2) 秩序又は風俗を乱し、若しくは乱すおそれがあると認められる者
- (3) 職員の指示に従わない者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、管理上入館が不相当と認められる者

(損害賠償の責務)

第12条 入館者は、施設設備、資料等を損傷し、若しくは滅失し、又は汚損し、若しくは紛失したときは、教育委員会の指示に従い、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 入館者が前項の義務を履行しないときは、教育委員会が代行し、これに要した費用を入館者から徴収する。

(破損等の届出)

第13条 入館者は、建物、附属設備及び備品類を破損し、汚損し、又は滅失したときは、直ちに破損等届(様式第7号)により委員会に届け出て、その指示を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第14条 展示施設の資料の貸出しを受けようとする者は、展示施設資料貸出許可申請書(別記様式第8号)を教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、展示施設資料の貸出しを許可したときは、展示施設資料貸出許可書（別記様式第9号）を交付するものとする。

（資料の滅失等の報告）

第15条 展示施設の資料の貸出しを受けた者が、当該資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに教育長に資料滅失（損傷）報告書（様式第10号）を提出し、その指示を受けなければならない。

（その他）

第16条 この規則に定めるもののほか、展示施設の管理運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

（施行期日）

1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

観覧料還付申請書

※太線内を記入してください。

年 月 日	
(あて先) 外ヶ浜町教育委員会教育長	
申請者	住 所 団体名 氏 名 連絡先 (TEL) (    )
理 由	
添付書類	
申請額	円
決 定 額	
受 付	年 月 日
決 定	年 月 日

## 観覧料還付決定通知書

住 所 団体名 氏 名	様
理 由	
決定額	円
上のとおり決定します。	
年 月 日	
外ヶ浜町教育委員会 教育長	

観覧料減免申請書

※太線内を記入してください。

年 月 日					
(あて先) 外ヶ浜町教育委員会教育長					
申請者 住 所 団 体 名 氏 名 連絡先 (TEL) ( )					
利用年月日	年 月 日 ( ) 時 分 から				
理 由					
観覧料	区 分	単 価	人 員	金 額	
	一 般	円	人	円	
	合 計				
減免申請額	円				
添付書類					
減免決定額	円				
受 付	年 月 日		決 定	年 月 日	

### 観覧料減免決定通知書

住 所 団体名 氏 名					様				
利用年月日		年 月 日 ( ) 時 分 から							
理 由									
観覧料	区 分	単 価	人 員	金 額					
	一 般	円	人	円					
	合 計								
減免申請額		円							
添付書類									
減免決定額		円							
上のおり決定します。									
年 月 日 外ヶ浜町教育委員会 教育長									

## 資料特別利用許可申請書

年 月 日	
<p>(あて先) 外ヶ浜町教育委員会教育長</p>	
申請者	住 所 団体名 氏 名 連絡先 (TEL) (    )
利用目的	
利用方法	
実際に利用する人の氏名	
利用日時 年 月 日 (    ) 時 分 から 年 月 日 (    ) 時 分 まで	
利用資料	
備考	
受 付 年 月 日	許 可 年 月 日

### 資料特別利用許可書

住所 団体名 氏名	様
利用目的	
利用方法	
実際に利用する人の氏名	
利用日時	
年 月 日 ( )	時 分 から
年 月 日 ( )	時 分 まで
利用資料	
備考	
上のおり許可します。	
年 月 日	
外ヶ浜町教育委員会 教育長	

## 破損等届

年 月 日

外ヶ浜町教育委員会

教育長

様

申請者 住 所

氏 名

連絡先 (TEL)

次のとおり破損(汚損、滅失)したのでお届けします。

については、ご指示の方法により損害を賠償します。

入館日	年 月 日		
使用目的(行事名)			
使用責任者	住所		
	氏名	連絡先 (TEL)	
破損等の日時	年 月 日	午前・午後	時 分
破損等の箇所又は物件の 内容及び数量			
備考			

備考

- 1 申請者が法人その他の団体の場合は、その所在地、名称及び代表者名を記載してください。

様式第8号(第14条関係)

## 展示施設資料貸出許可申請書

年 月 日

外ヶ浜町教育委員会教育長 様

住所  
申請者 氏名  
連絡先 (TEL)

下記のとおり資料の貸出しを受けたいので、14条第1項の規定により申請します。

### 記

利用目的			
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで ( 日間)		
利用場所			
貸出資料	資 料 名	数 量	摘 要
輸送方法			
資料取扱責任者			

### 備考

- 1 申請者が法人その他の団体の場合は、その所在地、名称及び代表者名を記載してください。

様式第9号(第14条関係)

## 展示施設資料貸出許可書

年 月 日

住 所

氏 名 様

外ヶ浜町教育委員会  
教育長

年 月 日付で申請のあった資料の貸出しについて、下記のとおり許可します。

### 記

利 用 目 的			
貸 出 期 間	年 月 日から 年 月 日まで ( 日間)		
貸 出 場 所			
貸 出 資 料	資 料 名	数 量	摘 要
輸 送 方 法			
資料取扱責任者			
許 可 条 件			

## 資料滅失(損傷)報告書

年 月 日

外ヶ浜町教育委員会  
教育長 様

申請者 住 所

氏 名

連絡先 (TEL)

資料を下記のとおり滅失(損傷)したので報告します。  
また、それに対する指示をお願いします。

### 記

滅失(損傷)した 資料名及び数量	
滅失(損傷)した 年月日及び場所	年 月 日 (午前・午後 時 分) 場所:
状 態	滅失・損傷
事故等の概要	

### 備考

- 1 申請者が法人その他の団体の場合は、その所在地、名称及び代表者名を記載してください。

# 大平山元遺跡展示施設むーもん館年報

## 第1号

2024(令和6)年度

2025(令和7)年3月31日発行

編集・発行 外ヶ浜町教育委員会

〒030-1393

青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田高銅屋44番地2

TEL 0174-31-1233 (社会教育課) 31-1236 (世界遺産対策室) FAX 0174-31-1234

印刷 青森コロニー印刷

〒030-0943

青森県青森市幸畑字松元62番地3

TEL 017-738-2021 FAX 017-738-6753

